MS・キャラクター・ヒストリー —— 全ガンダムシリーズの完全記録

THE OFFICIAL

GUNDAM PERFECT FILE

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

定価590円（税込）
2012/8/7
44

今週のMS❶

XXG-01D2 GUNDAM DEATHSCYTHE HELL EW VERSION

MECHANIC FILE

ガンダムデスサイズヘル（EW版）／
ビルゴ／ビルゴII／
ザンジバル／トリロバイト／
ガンダム4号機／ガンダム5号機／
ガンダム6号機

PERSONAL PROFILE

デュオ・マックスウェル／
ブリベンターの人々／
クラウ・ボゥ／
ホワイトベースの乗員

デュオ・マックスウェル

U.C.の艦艇

WORLD GUIDE

トレーズ失脚とOZの分裂／
U.C.の艦艇／マリーメイアの反乱

A.C.TIMELINE

OZの台頭と新たな戦乱

GLOSSARY

『機動戦士Zガンダム』用語集

DeAGOSTINI
インターネットでパートワークをより楽しく deagostini.jp

THE OFFICIAL GUNDAM PERFECT FILE

CONTENTS

第44号　目次

MECHANIC FILE　メカニックファイル

ガンダムデスサイズヘル（EW版）	EW	FILE：01 / SHEET：02A	44-1
ビルゴ／ビルゴII	W	FILE：01 / SHEET：17A	44-5
ザンジバル	FG	FILE：01 / SHEET：36A	44-7
トリロバイト	00	FILE：01 / SHEET：31A	44-9
ガンダム4号機／ガンダム5号機／ガンダム6号機	AGS	FILE：01 / SHEET：38A	44-11

PERSONAL PROFILE　パーソナルプロファイル

デュオ・マックスウェル	EW	FILE：02 / SHEET：02A	44-13
プリベンターの人々（レディ・アン 他）	EW	FILE：02 / SHEET：08A	44-15
フラウ・ボゥ	FG	FILE：02 / SHEET：04A	44-17
ホワイトベースの乗員	FG	FILE：02 / SHEET：11A	44-19

WORLD GUIDE　ワールドガイド

トレーズ失脚とOZの分裂	W	FILE：03 / SHEET：06A	44-21
U.C.の艦艇	FG	FILE：03 / SHEET：40A	44-23
マリーメイアの反乱	EW	FILE：03 / SHEET：04A	44-27

A.C.TIMELINE　アフター・コロニー年表

OZの台頭と新たな戦乱	W	FILE：04 / SHEET：02	44-29

GLOSSARY　ガンダム用語辞典

『機動戦士Zガンダム』用語集	Z	FILE：05 / SHEET：14	44-31

このパーフェクト・ファイルで扱うガンダムシリーズ

本誌では、映像化された28作品のガンダム・シリーズを中心に取り扱います。OVAや映画など、異なる形態でリリースされた作品も各シリーズにまとめ、ひとつのシリーズとしてアイコン化しています。また、書籍やゲーム、プラモデルなど、映像化されなかった作品を「AGS」としてまとめて取り扱います。

■宇宙世紀を舞台にしたシリーズ

- FG 機動戦士ガンダム
- 08 機動戦士ガンダム 第08MS小隊
- IGL 機動戦士ガンダム MS IGLOO 1年戦争秘録、黙示録0079
- IGL2 機動戦士ガンダム MS IGLOO2 重力戦線
- GC GUNDAM CRISIS
- RIDE GUNDAM THE RIDE
- 80 機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争
- 83 機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー
- Z 機動戦士Zガンダム
- GD ガンダム新体験 −0087− GREEN DIVERS
- ZZ 機動戦士ガンダムZZ
- CCA 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア
- UC 機動戦士ガンダムUC
- F91 機動戦士ガンダムF91
- V 機動戦士Vガンダム

■宇宙世紀とは別の世界を舞台にしたシリーズ

- GG 機動武闘伝Gガンダム
- W 新機動戦記ガンダムW
- EW 新機動戦記ガンダムW Endless Waltz
- X 機動新世紀ガンダムX
- V ∀ガンダム
- SEED 機動戦士ガンダムSEED
- DES 機動戦士ガンダムSEED DESTINY
- SG 機動戦士ガンダムSEED C.E.73 STARGAZER
- 00 機動戦士ガンダム00
- AGE 機動戦士ガンダムAGE

■その他の作品

- AGS 非映像化作品 ※AGSは、「ANOTHER GUNDAM STORY」の略です。
- RG Ring of Gundam
- EVL GUNDAM EVOLVE

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』

特製バインダー好評発売中。

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は、特製バインダーを使ってファイリングしていくユニークな雑誌です。この特製バインダーを、全国の書店で販売しております。2冊セットで590円（税込）。ぜひお買い求めください。

※このバインダーには、ディバイダー（仕切り用紙）はついていません。
　創刊プレゼントのバインダーについているディバイダーをご利用ください。
※1冊のバインダーに、本誌約10冊分を綴じることができます。

［発行日］2012年8月7日
［発　行］株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
　〒104-6205　東京都中央区晴海1-8-12 トリトンオフィスタワーZ
［発行人］小河原和世
［編集人］クロス中山慶子
［チーフエディター］安部 翠
［アートディレクター］今福健司
［印　刷］大日本印刷株式会社

©2012 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.
本誌の記事・写真・絵画等を無断で複写（コピー）、転載することを禁じます。

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は、2004年に弊社が刊行した週刊『ガンダム・ファクトファイル』の一部を流用しておりますが、最新のシリーズ作品やガンダム関連情報、新規描きおろしイラストなどを多彩に盛り込み製作したビジュアルマガジンです。

［編集協力］MEGALOMANIA（富田英樹／渡邉洋三／高村泰稔／本田あきら／鈴木秀治／公森直樹／桑木貴章）
［執　筆］坂口徳仁／杉山和繁
［デザイン］ケークルーデザインワークス（中村亮平／萩口洋文／出嶋 勉／生馬沙知子／冨岡哲也／及川深紗子）
［表紙イラスト］筱 雅律
［監　修］株式会社サンライズ

©創通・サンライズ
©創通・サンライズ・MBS

●読者サービスセンター
（本誌関連の一般的なご質問を承ります）
TEL：0570-008-109（月〜金 10:00〜18:00 土日祝を除く）

定期購読のご案内

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は毎週火曜日発売のマガジンシリーズです（一部地域を除く）。シリーズは全180号を予定しています。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄りの書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての直接定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. 読者受注センターに電話またはファクスで
　TEL：0120-300-851（フリーダイヤル 9:00〜21:00 年末年始を除く）
　FAX：0120-834-353（フリーファックス 24時間受付）
2. インターネットで
　http://deagostini.jp/gpf/（24時間受付）
　※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
3. 定期購読申し込み用紙を郵送で
　「定期購読のお知らせ」がお手元にない場合は受注センターまでご連絡ください。

バックナンバー／バインダー注文のご案内

本誌のバックナンバー／バインダーは最寄りの書店でご注文ください。なお、バックナンバーの在庫数には限りがございますので、その旨ご了承ください。直送（別途送料要、代引き）のご注文も承っております。上記読者受注センターまでお問い合わせください。

【個人情報のお取り扱いについて】ご注意、お申し込み前に下記規約を必ずお読みください。　1. 弊社は商品発送と連絡、商品開発のためのデータの集約と分析、プレゼント発送商品情報のお知らせのご質問への回答、不良品対応の場合のお客様への連絡及び取替品の発送、以外の目的で個人情報を利用しません。　2. 弊社はお客様に事前にご了承を得た場合、及び下記の場合を除き、第三者に個人情報を提供・開示しません。（1）法令に基づき、司法、行政、または認定機関から情報開示の要請を受けた場合（2）クレジットカード決済のため、弊社と提携している管理体制を有する会社への情報提供の場合　3. 弊社は注文受付、配送、代金回収、カスタマーサービスなど、保有する個人情報を必要な範囲で委託することがあります。委託先は契約書により厳重に管理され、業務遂行上必要な個人情報を利用し、それ以外の目的では利用しません。　4. 個人情報の開示に応じるかどうかの選択はお客様の任意です。定期購読やプレゼント等の申込書に未記入部分がある場合、手続ができない可能性もありますが、それ以外の不利益は生じません。（ご購入窓口：定期購読受注センター　0120-300-851）　5. 個人情報の利用目的の通知、個人情報に関する開示、訂正・追加・削除、利用停止・消去・第三者への提供の停止、又は苦情の申し出は下記窓口まで連絡下さい。デアゴスティーニ・ジャパン個人情報保護相談受付窓口　電話番号：03-5333-7722　受付時間 10:00-18:00（土日・祝日、弊社休業日を除く）※ウェブサイトで個人情報保護の詳細をご案内しております。http://deagostini.jp/security/

本誌の最新情報をCheck!

PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
http://deagostini.jp/gpf/

MECHANIC FILE

モビルスーツ：XXXG-01D2 ガンダムデスサイズヘル（EW版）

EW FILE 01 SHEET 02A

XXXG-01D2

GUNDAM DEATHSCYTHE HELL EW VERSION

ガンダムデスサイズヘル（EW版）

Illustration by MASANORI SHINO ／ Color by YUICHI KUBOKI ／ Special Effect by MASANORI SHINO ／ Background by EIJI WAKAMATSU (KUSANAGI)

XXXG-01D2 GUNDAM DEATHSCYTHE HELL EW VERSION

XXXG-01D2 ガンダムデスサイズヘル（EW版）

GUNDAM DEATHSCYTHE HELL EW VERSION

unknown

漆黒の翼を備え「死神」と呼ばれたガンダム

頭部
本機はレーダーを無効化するハイパージャマーを備えているが、頭部に設置されたセンサーやアンテナはその影響を受けない仕様となっていた。

構造
隠密性に特化した機体であり、ハイパージャマーを用いることによってその姿をレーダーから消すことができた。また開閉自在の防御兵器アクティブクロークの装備により、肉弾戦でも力を発揮した。

脚部
爪先と膝部分に、クロー状の突起を設置している。攻撃にも転用できたようで、接近戦で敵機に突き刺すことも可能であったと見られる。

背部
アクティブクロークによって本体背部は覆われている。翼を広げた際の横幅はかなりの長さになり、対峙した敵に威圧感を与えることができた。

■ SPEC

全高	——（頭頂高 16.3m）
重量	7.4t
ジェネレーター出力	——
スラスター推力	——
装甲材質	ガンダニュウム合金
武装	ビームシザース／頭部バルカン×2／アクティブクローク／ハイパージャマー
所属	——
搭乗者	デュオ・マックスウェル

■ COMPARISON CHART

■ COLOR

BLACK RED WHITE GRAY

デュオが操縦した変幻自在の格闘戦機

A.C.（アフター・コロニー）196.12.24、トレーズ・クシュリナーダの娘を名乗るマリーメイア・クシュリナーダを指導者とした反乱軍が地球圏統一国家に対して宣戦布告し、侵攻作戦を開始した。これに抵抗したMSパイロットのひとりに、デュオ・マックスウェルがいた。1年前の戦乱「EVE WARS」にて「G」チームの一員として活躍し、早期の戦乱終結をもたらした彼は、地球圏の平和を取り戻すため再び戦場へ出撃することを決意する。その彼の愛機として用いられたのが、ガンダムデスサイズヘルであった。

デスサイズヘルは、レーダーを無効化する機能を有する、隠密性の高い機体である。敵部隊に悟られずに接近し、攻撃を加えるのが常套手段であり、ビームシザースと呼ばれる近接戦闘用兵器を主武装としていた。またアクティブクロークと呼ばれる開閉自在のウイング状ユニットを備えており、防御力にも秀でている。

機体は反乱軍の登場直前、一度は放棄されたが、反乱軍の宣戦布告を受けてデュオの元へと戻った。その後、反乱軍の主力MS・サーペント部隊との戦いに参加し、その実力を発揮している。

関連ファイル

XXXG-01D ガンダムデスサイズ	W-01-03
XXXG-01D2 ガンダムデスサイズヘル	W-01-04
XXXG-00W0 ウイングガンダムゼロ	EW-01-01
デュオ・マックスウェル	EW-02-02

FILE PREVIEW

EW-02-02 デュオ・マックスウェル

ガンダムデスサイズヘルのパイロット。マリーメイアの反乱において再び戦線に復帰し、ヒイロ・ユイらと共に反攻作戦を繰り広げた。

構造／武装　ステルス性能を活かした機動性と格闘能力

ハイパージャマーの装備によりレーダーでの捕捉を不可能としていたデスサイズヘルは、そのステルス性能を最大限に用いるため、機動力と格闘能力に重点が置かれている。武装にも、大出力のビーム刃によって容易に敵を切断できるビームシザースを中心に、脚部のスパイクや、両腕部の小型シールドなど、近接戦闘時に威力を発揮する武装群を装備。デュオはこうした機体特性を活かし、敵機に速やかに接近して格闘戦に持ち込み、ビームシザースで一気に戦闘を終わらせる攻撃パターンを確立していたのである。

ブリュッセル市街地での戦闘でも、その高い機動性を活かしてサーペント部隊を翻弄。相手に反撃の隙を与えず撃破していった。

「死神」として戦場へ復帰したデュオの巧みな操縦により、その機動性と近接戦闘能力が遺憾なく発揮された。

■ 頭部バルカン

アンテナの基部を挟み込むように、本機唯一の射撃兵器であるバルカンを2門備える。優れた連射性能を持ち、牽制やミサイルの迎撃などに使われた。

■ ビームシザース

杖状のグリップを持つ長尺の格闘兵器。先端から射出する鎌状のビーム刃で敵機を切断することができた。グリップは両手で掴むのが基本である。

■ 背部（アクティブクロークなし）

アクティブクロークを外した状態の背部。バックパックなども本体には直接設置されていないシンプルな形状で、推進力はアクティブクロークに依存している。

特殊兵装　運動能力と防御力を支える翼

デスサイズヘルの機動力と防御力を支えるのが、開閉自在のウイング状パーツ、アクティブクロークである。コウモリのような動物的フォルムを持ち、漆黒のカラーリングが施されたこの特殊兵装は、パーツ内側にスラスターを備えたことで、ホバーブン時には機体の俊敏な行動をサポートした。一方で、上半身を丸ごと覆ってしまうクローズ時には、ビーム・実体攻撃双方をシャットアウトする優れた追加装甲としても機能したのである。また、アクティブクロークの表面は大気圏突入時の衝撃や断熱にも対応しており、A.C.196に行われたマリーメイア軍との戦闘でも、単独で宇宙から地球へ降下することに成功している。

アクティブクロークを広げ、地上に降下するデスサイズヘル。その異様なフォルムは、敵パイロットに恐怖を与えた。

アクティブクロークを展開し、高速移動するデスサイズヘル。大気圏内でも飛行できるだけの機動性を有していた。

■ アクティブクローク（クローズ時）

アクティブクロークをクローズした状態のデスサイズヘル。ウイング状のパーツが機体を包囲し、上半身をカバーする。

アクティブクロークをクローズした状態では、腕部もその内部にカバーされる。そのため、バルカン以外での攻撃は不可能であり、主に移動時や防御に専念する際にこの状態となった。

大気圏へと突入した際のデスサイズヘルは、アクティブクロークで大気圏突入時の衝撃と熱をカバー。降下後にはアクティブクロークを展開し、速やかに攻撃体勢へと入った。

MORE INFO!

共同戦線

A.C.196の戦乱では、マリーメイア軍の主力機サーペントが大量に地球へ降下し、ブリュッセルの大統領府を占拠した。その大部隊に抵抗するため、デュオのデスサイズヘルは、「G」チームの仲間であったカトル・ラバーバ・ウィナーのガンダムサンドロック改、トロワ・バートンのガンダムヘビーアームズ改のほか、プリベンターに所属するルクレツィア・ノインのトーラス、ゼクス・マーキスのトールギスIIIと共同戦線を張った。圧倒的な物量差はあったものの、各パイロットの高い状況判断力と巧みな連携で敵部隊の分断に成功している。

「G」チームを指揮したこともあるカトルらと連携し、サーペントの大部隊と対峙。非戦の意思を示すため、コクピットへの攻撃は極力控え、人命を奪うことを避けた。

■ ガンダム

左からガンダムサンドロック改と、ガンダムヘビーアームズ改。サンドロック改は格闘能力、ヘビーアームズ改は砲撃力を用いてサーペントを撃破していった。

■ プリベンター所属機

高機動タイプの可変機トーラス（左）と高機動と高火力を兼ね備えたトールギスIII（右）。ノインとゼクスはOZ時代からの盟友であり、その連携能力も高かった。

©創通・サンライズ

OZ-02MD

ビルゴ
VIRGO

攻守のバランスを重視した、新型MD

右肩装甲
主兵装であるビームキャノンにエネルギーを供給する専用ジェネレーターを右肩装甲内に搭載。本体ジェネレーターとは独立した装備で、プラネイトディフェンサー起動中でも安定した火力を実現した。

左肩装甲
強力な電磁フィールドを発生させ、ビームや実弾兵器の軌道を湾曲させる防御装備（プラネイトディフェンサー）を左肩装甲に3基搭載。ただし多少の死角があるため、3機1組での行動を基本とする。

装甲材質
OZが開発を担当した量産MSとしては、初めて装甲材質にガンダニュウム合金を採用。精製コストが高額であり、精製には専用施設を必要とするとはいえ、この合金を採用したことで、本機はガンダム・タイプMSに匹敵する基本能力を獲得することとなった。

肩部装甲
死角を生じる危険性を排するため、プラネイトディフェンサーを両肩装甲に4基ずつ搭載。これにより単独でも機体のほぼ全面をカバーできるようになった。

バックパック
さらなる機動性の向上を目指し、両肩後方にスラスター内蔵のバックパックを増設。必要に応じてノズルを露出させることで、推進剤の無駄な消費を抑える設計となっている。

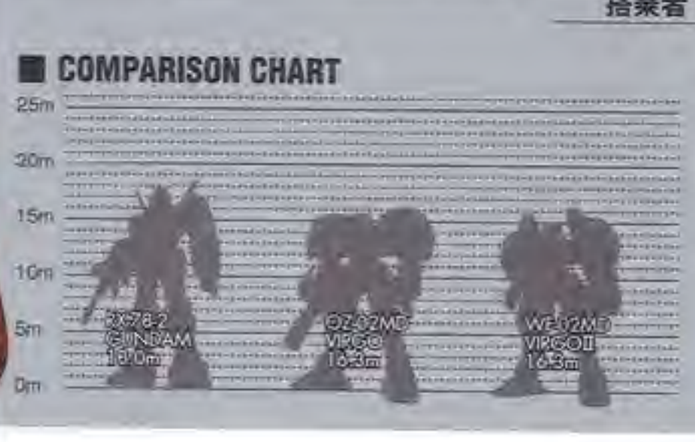
■ SPEC -OZ-02MD VIRGO-

全高	16.3m
重量	7.3t
ジェネレーター出力	——
スラスター推力	——
装甲材質	ガンダニュウム合金
武装	ビームキャノン
所属	OZ
搭乗者	——

■ SPEC -WF-02MD VIRGOII-

全高	16.3m
重量	7.5t
ジェネレーター出力	——
スラスター推力	——
装甲材質	ガンダニュウム合金
武装	ビームライフル／メガビーム砲／ビームサーベル×2
所属	WF
搭乗者	——

■ COMPARISON CHART



■ COLOR

OZ-02MD VIRGO

WF-02MD VIRGOII

WF-02MD

ビルゴII
VIRGOII

WFが運用した、改修型ビルゴ

パイロットを不要にした人型機動兵器とその発展

全地球規模のクーデター（オペレーション・デイブレイク）で地球圏統一国家を倒したOZおよびロームフェラ財団は、自らの支配基盤を確固たるものにすべく、戦力拡充策を実施。その際、配備MSに搭載されたのがMD（モビルドール）システムである。これはMSの操縦系の中核からパイロットを排し、高度な自律システムによる無人化を目指したもので、熟練パイロットを必要としないなど、様々な利点があると考えられた。こうして導入が決定したMDシステムはリーオーやトーラスでの試験運用を経て、ついに完成の域に達した。それが、ツバロフ技師長が設計したビルゴである。5人のガンダム開発者が製造した試作MS（ヴァイエイトとメリクリウス）の基本設計を踏襲しつつ、両機の利点（ヴァイエイトは攻撃面に、メリクリウスは防御面に特化している）を1機に集約したビルゴは、無人機ならではの正確無比な行動と圧倒的な性能によって主力量産機の座を獲得。これでOZとロームフェラ財団の支配基盤は安泰かと思われた。だが現政権に反発するコロニー側の武装勢力WF（ホワイトファング）が月面基地MD生産プラントを急襲。強奪したパーツから組み立てたビルゴIIが自らに牙を剥く事態は想定していなかったのだった。

関連ファイル

OZ-06MS リーオー	W-01-13
OZ-12SMS トーラス	W-01-15
OZ-13MSX1/MSX2 ヴァイエイト　メリクリウス	W-01-16
ロームフェラ財団の人々	W-02-17
ホワイトファングの人々	W-02-18
MD（モビルドール）	W-03-13
A.C.195の戦乱	W-03-28

FILE PREVIEW

W-03-13　MD（モビルドール）

有人パイロットによる機体操作を一蹴し、制御系を無人化したMSの総称。機械による緻密な連携が可能な反面、命懸けの戦闘をゲーム感覚に変えてしまうとの批判に晒された。

OZ-02MD　無人機ならではの能力と、それを活かす装備

リーオーやトーラスが有人機をMDに改修した機体であるのに対し、ビルゴは設計当初からMDとして開発された。そのため有人機では耐えられないほどの高加速戦闘にも対応でき、それが圧倒的な戦闘力に繋がったのである。そこでビルゴの主兵装には大出力ビームキャノンが採用された。一方、ビームサーベルに代表される格闘兵装は見送られている。これはプラネイトディフェンサーの防御範囲に隙があり、格闘戦でそこを突かれることを避ける処置と思われる。積極的な近接格闘を避け、アウトレンジからの射撃で標的を撃破することがビルゴの基本戦術なのだろう。

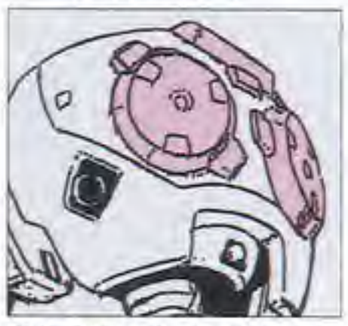
専用ジェネレーターからエネルギーを供給されるビームキャノンは優れた火力を示した。その威力はリーオーやエアリーズを一撃で撃破するほどだ。

3機1組となってプラネイトディフェンサーを展開すれば、全方位に対する防御が可能。ちなみにこのバリアーはビームだけでなく、実弾にも有効である。

■ ビームキャノン

主兵装となるビームキャノンは右前腕部に直接マウントされている。またエネルギーを供給する専用ジェネレーターとはケーブルで接続されており、大火力をもたらした。

■ プラネイトディフェンサー



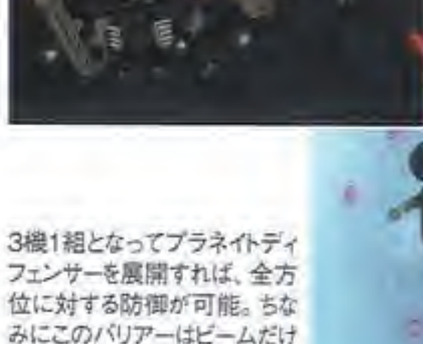
防御兵装のプラネイトディフェンサーは必要に応じて放出され、機体周囲に電磁気的なバリアーを形成する。ただし3基では全方位からの攻撃をカバーし切れなかった。

■ 射撃姿勢

大型火器であるビームキャノンは右腕だけでも操作できるのだが、精密な照準には両腕での操作が必要だった。前方に構えた銃身を左腕で保持することで射線を安定させ、確実に標的を捉えるのである。

WF-02MD　汎用性を高め、ガンダムに匹敵する力を獲得

WFが運用したビルゴIIは、MDシステムはそのままに汎用性の向上を図った改修が施されている。火力よりも取り回しを重視したビームライフルを主兵装とし、新たにビームサーベルを装備したのは、想定されるあらゆる戦局に対応させるためだろう。さらにプラネイトディフェンサーの増加や強化、スラスターを内蔵したバックパックの採用など、防御力や機動性の強化も並行して行われている。その結果、ビルゴIIは単独／連携行動のどちらでも優れた戦果を発揮。ガンダムと互角以上の戦闘を演じられるほどの高性能機となり、MDシステムの有効性を実証したのである。

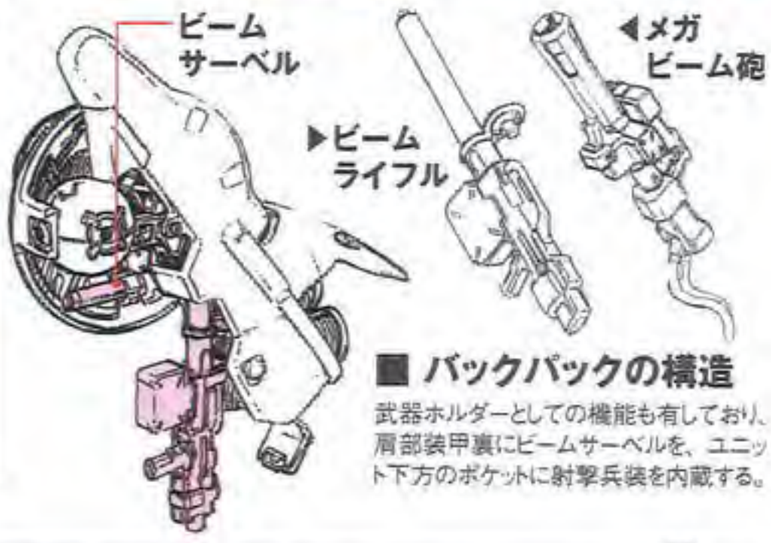


新たに主兵装として採用されたビームライフルは射程や連射性といった総合性能を重視している。またこれとは別に火力に特化したメガビーム砲を装備することもあった。

ビームサーベルはビルゴには搭載されていなかった兵器であり、これを採用することで、ビルゴIIは高速格闘戦にも対応できるようになった。

■ バックパック

肩部装甲と一体化したような形状のバックパックは推進剤タンクとスラスターを組み合わせたユニット。搭載することで重量は増加したが、推力増強はそれを上回っており、良好な機動性を発揮している。



■ バックパックの構造

武器ホルダーとしての機能も有しており、肩部装甲裏にビームサーベルを、ユニット下方のポケットに射撃兵装を内蔵する。

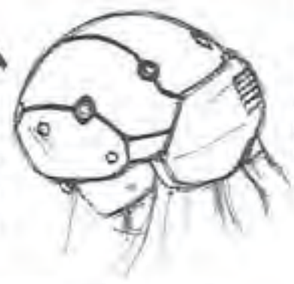
操縦システム　ゼロシステムを導入した特殊な操縦系

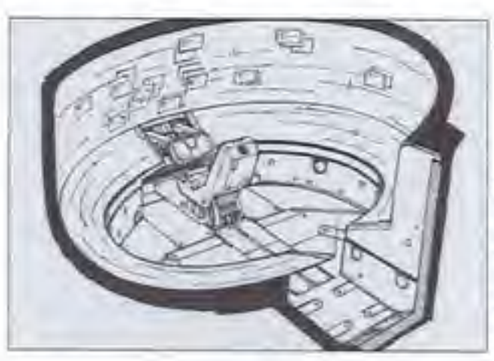
MDは戦闘プログラムに従って自律行動する無人機だが、外部からの一括操作も可能である。ガンダムとの戦闘に臨む際、ドロシー・カタロニアはビルゴII部隊の一括集中制御を提案。まずは最適な勝利条件を導き出す機構（ゼロシステム）を自らが操作し、システムの回答に従ってビルゴII部隊に指示を発した。反応速度の遅延はあったものの、状況に即した連携行動にこれは極めて有効だったようだ。

ゼロシステムを駆使してビルゴII部隊を見事に運用したドロシー。相手の行動を見透かしたかのような的確な動きの前に、ガンダムパイロットも苦戦を強いられることになった。

■ 専用ゼロシステム

ゼロシステムを操作する際、ドロシーは専用ヘルメットを着用した。これによりシステムが導き出した戦術を、自らの意識に直接投影できたようだ。





ゼロシステムを用いたビルゴII部隊の操作には専用施設が必要となる。ドロシーは中央の席に座り、周囲のモニターを確認しながら指示を出すのである。

MORE INFO!

MD発展の系譜

多大な戦果を挙げたMDシステムだが、一朝一夕で完成した訳ではない。ビルゴやビルゴIIに搭載される以前から開発が進められ、段階を踏んで完成に至ったのである。実際、導入直後のMDはあまりに機械的な動きが読まれやすく、熟練パイロットから「ただの人形」と揶揄されることもあったほどだ。しかし戦闘プログラムの改良を中心とした改修作業が施され、最終的にはガンダムタイプに匹敵する能力を発揮したのである。MDシステム搭載機の系譜と機体別の特徴を概観することで、システムの進化が理解できるだろう。

■ OZ-06MS リーオー

OZが最初期に開発した量産MS。汎用機として設計されたため突出した性能はないが、あらゆる戦場に対応可能である。そのためMDシステムの試験運用機に選定され、模擬戦闘でシステムの有効性を証明してみせた。

■ OZ-12SMS トーラス

エアリーズに代わる航空戦力として開発され、無重力下戦闘でも優れた能力を発揮した可変機。MDシステムの本格導入機となり、有人機では実現不可能な高加速度と反応速度を記録し、MD量産の糸口となったことで知られる。

■ OZ-13MSX1 ヴァイエイト

OZに身柄を拘束された5人のガンダム開発者が共同製作した試作MS。ヴァイエイトは攻撃に特化した機体であり、専用大型ジェネレーターを有するビームキャノンは「最強の矛」の名に相応しい火力を発揮する。

■ OZ-13MSX2 メリクリウス

ヴァイエイトの対として開発された試作MS。メリクリウスは「最強の盾」を目指した機体であり、10基ものプラネイトディフェンサーが強固なバリアーを発生させる。この2機の運用データがビルゴに導入された。

■ ビルゴ³（ビルゴIII）

地球圏統一国家の樹立後、兵器廃絶に強硬派として知られるP3（パーフェクト・ピース・ビープル）が開発したMD。プラネイトディフェンサーは2基だが、出力向上によって防御力はビルゴIIを上回る。

■ ビルゴIV

大量製造されたビルゴIIIを回収し、火星環境への適応を目指したMD。外見はビルゴIIを踏襲しているが、大型ビームライフルとネオ・プラネイトディフェンサーの採用で攻防両面が強化されている。

©創通・サンライズ

ZANZIBAR

ザンジバル

ザンジバル級機動巡洋艦

ZEON

ジオン公国軍において唯一大気圏突入を可能とした軍用艦

関連ファイル

MA-05 ビグロ	FG-01-21
シャア・アズナブル	FG-02-23
ランバ・ラル	FG-02-30
黒い三連星	FG-02-42
宇宙への戦線移行	FG-03-10
U.C.の艦艇	FG-03-40

FILE PREVIEW

FG-02-30 ランバ・ラル

ガルマ・ザビの仇を討つべく、ドズル・ザビに派遣されたランバ・ラル（左）。ザンジバル級によって地球へと降り、その際にホワイトベース隊と邂逅。交戦状態となった。

SPEC

全長	255m
武装	2連装主砲／2連装機関砲×5／固定メガ粒子砲×4／Jタイプ・ミサイル×2
所属	ジオン公国軍
搭載MS	MS-06F ザクⅡF型／MS-07B グフ／MS-09R リック・ドム／YMS-14 シャア専用ゲルググ／MA-04X ザクレロ／MA-05 ビグロ／MAN-08 エルメス
艦長	――

COMPARISON CHART

COLOR

格納庫

ザンジバル級は3機のMS搭載能力を持つとされるが、6機、9機、12機、16機との異説が存在。なお、本艦を改修したザンジバルⅡは6機である。

ランディング・ギア

重力が作用する大気圏内において自重である22,000t（異説では24,000t）を支えるため、ランディング・ギアは艦底部に3基設けてある。

主翼

艦体底面で揚力を受けるリフティング・ボディの採用により、大気圏内では滑空して飛行を行う。そのため主翼は小型。全幅は221.8m。

機関部

主推進機関に熱核ハイブリッド・エンジンを搭載。そのため大気圏内では熱核ジェット、宇宙空間では熱核ロケットを使い分けて推進する仕組みである。

連邦軍との技術格差が如実に表れた戦闘艦

ミノフスキー粒子散布下における戦闘に対応すべく、MSの有用性に着目したジオン公国軍。いち早く宇宙艦艇にMS運用能力を導入し、ムサイ級軽巡洋艦を完成させている。こうして、宇宙世紀における戦闘艦はMS運用能力を備えたものがスタンダードとなっていく。

ザンジバル級機動巡洋艦は、ムサイ級の性能を推し進め、MSの運用だけでなく大気圏突入能力と地上における一定の飛行能力を持った多目的艦艇として開発された。これは、地球侵攻作戦において、宇宙にある公国と侵攻地である地球を結ぶ補給線維持のため、立体的に運用できる機動性を備えた戦闘艦が必要となったためである。既存技術で造り上げた手堅い艦である一方、新技術は盛り込まれておらず、その点が、「宇宙／地上においてMS運用可能な艦艇」という似たコンセプトを持ちながら、ミノフスキー・クラフトという新機軸を導入したホワイトベース級強襲揚陸艦ホワイトベースに決定的な技術差を付けられた部分でもある。確かに先見性のあった公国軍だが、MS運用艦の先駆者としてのアドバンテージは失い、ザンジバル級は地球連邦軍に決定的な技術差を付けられた一例となってしまう。

艦載機　MAの搭載も可能とした艦載機運用能力

MSのほかにMAも搭載・運用が可能であった。ムサイ級と比べ、よりMSに密接した運用構想の基に開発されており、単にMSを搭載するだけでなく、格納庫内ではMSの補修と整備も可能としていた。MAの運用も視野に入れての設計だったと考えられる。

MSと比べても大型であるMAを搭載できたことからもわかるように、格納庫はスペースが大きく割かれていた。

■ YMS-14
シャア専用ゲルググ

■ MAN-08
エルメス

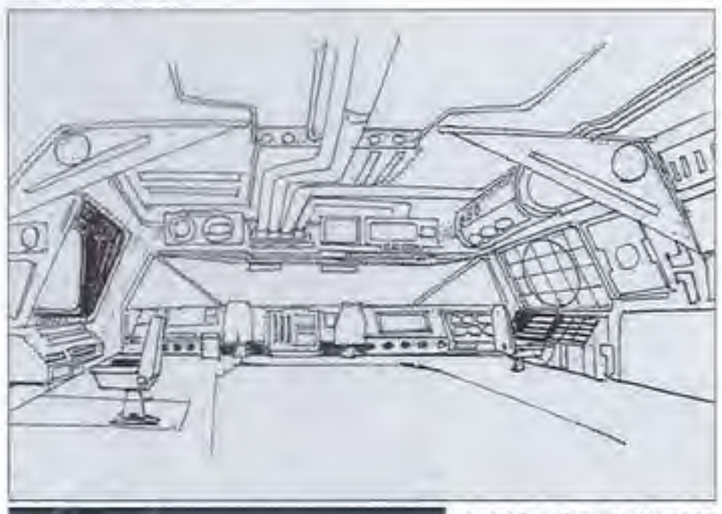
艦体構造　特殊部隊が運用した大気圏突入・離脱能力を備えた戦闘艦

1番艦の就航はU.C.0076.06と言われるが、就役自体はこれよりも後だとされる。大気圏突入が可能であったことから、ランバ・ラル隊や黒い三連星などの特殊部隊が地球降下に用いたほか、シャア・アズナブルの独立第300戦隊も運用した。なお、宇宙での航続距離はグワジン級大型戦艦に次ぎ、一説ではアステロイド・ベルトと地球を往復可能だったという。

ランバ・ラル隊が地球降下に用いたザンジバル級は、試作実験艦だとされる。メガ粒子砲の代わりに巨大投光器が搭載されていた。

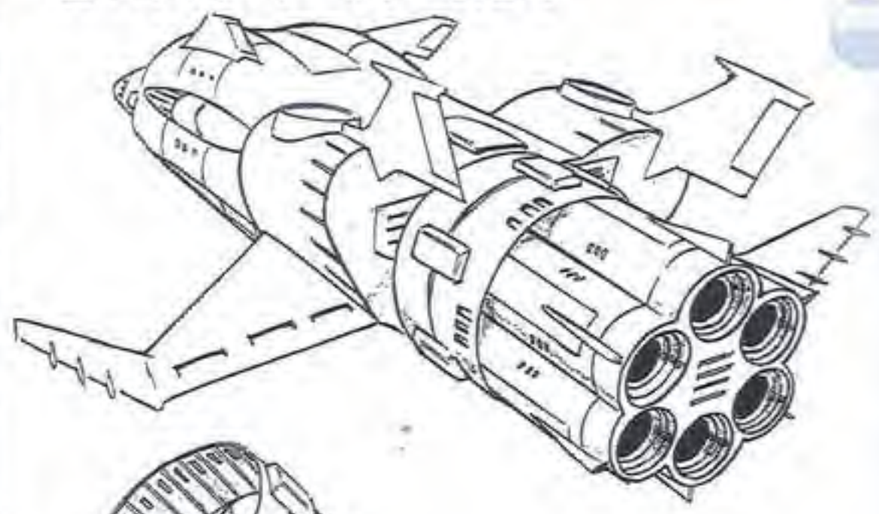
「アプサラス計画」を進めていた極東地区の鉱山基地に置かれたザンジバル級のケルゲレンは、基地の動力源として使用されていた。

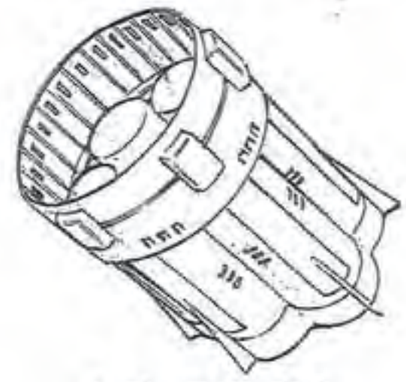
■ ブリッジ



大多数の宇宙艦艇とは異なり、ブリッジは艦首部分に設けられた。これはミノフスキー粒子散布環境下での大気圏内飛行における、肉眼での視認性を踏まえた設計だと考えられる。

■ ロケット・ブースター装着時



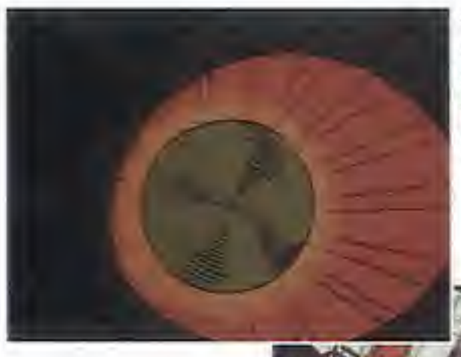


▲ ブースター本体

大気圏離脱には、化学燃料ロケットによる増加ブースターを用いる。1段式で、宇宙に上がった際は切り離される使い捨てタイプであり、連邦軍のサラミス級なども同様の方式を持つ。

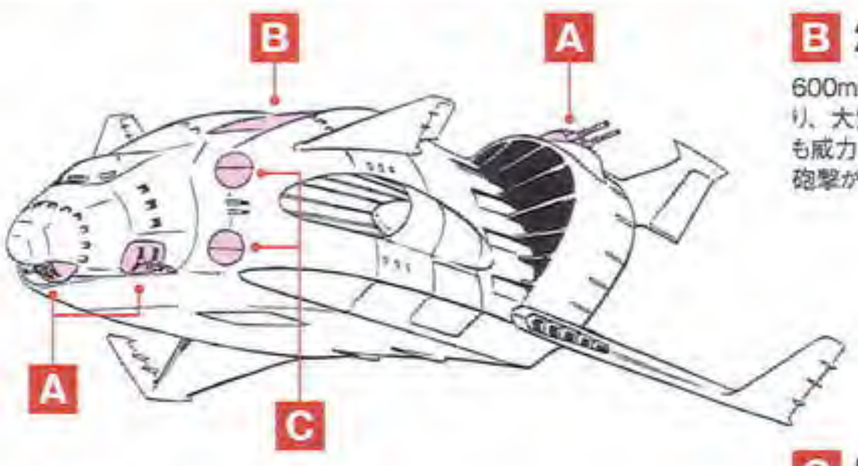
武　装　信頼性に重点を置いた火器類

ムサイ級と比べ砲の数は減っているものの、動力炉の出力向上などにより総合的な火力は高い。メガ粒子砲といったビーム兵装だけでなく、実体弾兵装も装備。特に主砲は実体弾を用いたタイプを採用しており、完成度が高いとは言えない当時のメガ粒子砲と威力に比べ、旧世紀から培われている信頼性のある堅実な武装が施されていた。



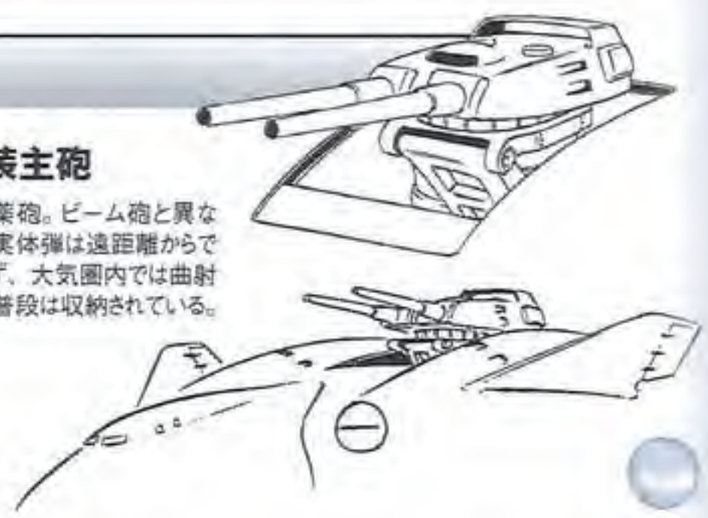
艦両舷には大型のミサイルであるJタイプ・ミサイルを搭載。命中すれば1発でサラミス級を撃沈するほどの威力を見せた。

メガ粒子砲は固定のため前方に対する火力は厚いものの、側面や後方は回頭式の主砲や各部に備わった機銃頼りとなる。



B 2連装主砲

600mmの火薬砲。ビーム砲と異なり、大質量の実体弾は遠距離からでも威力は落ちず、大気圏内では曲射砲撃が可能。普段は収納されている。

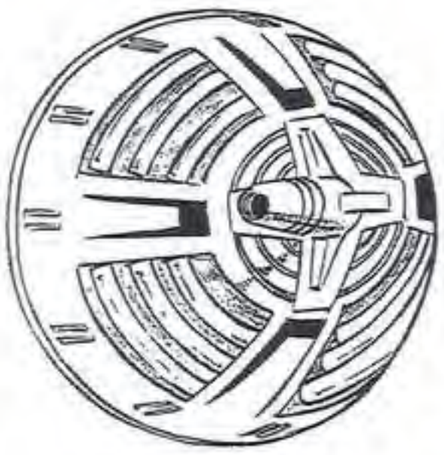


A 2連装機関砲

艦各部に合計5基備えられた対空機銃。大気圏突入時は艦内に収納されている。銃座は可動式となっており、射角は広い。

C 固定メガ粒子砲

偏光型と見られるメガ粒子砲。ランバ・ラル隊の運用艦は、この部分が投光器となっており、強烈な光で光学端末に灼き付けを引き起こし使用不能にする。



MORE INFO!　公国軍の宇宙用舟艇

早期からMSの実用化に努めていたジオン公国軍は、宇宙戦闘艦に関しては連邦軍に勝っていた。その一方、宇宙用の小型舟艇にさほど差はなく、戦闘用舟艇に関して言えばMSの実用化もあって開発に力は注がれていない。MSの実用化前は小型の戦闘用舟艇が艦載機として運用され、艦同士の艦砲射撃のさなか敵艦に肉薄。直接攻撃の担い手となっていた。しかし、MSが実戦投入された一年戦争において、開戦前に生産された戦闘用舟艇は予備戦力に位置付けられ、後方の拠点防衛などに配備。戦闘の花形はMSへと移行したのである。

ガトルはドロス級超大型空母などに搭載され、ア・バオア・クーの防空戦力を担う。連邦軍の突撃艇パブリク等と交戦するも、MSには歯が立たなかった。

内火艇は艦艇同士の兵員輸送や連絡任務のほか、緊急時の脱出艇としても重宝されていた。シャアがコンスコンのチベ級重巡洋艦に出向いた際に使われた。

■ ジッコ

小型突撃艇。ミサイル・ランチャー7基を艦首に備え、対艦攻撃に用いられる。また、ビーム攪乱膜を展開し、戦闘の補助も担った。

■ ガトル

宇宙高速戦闘爆撃機。バルカン砲とミサイル・ランチャーを持つ。複座式の独立型コクピットは、脱出カプセルとしても機能する。

■ 内火艇

連絡や人員輸送に用いる小型宇宙艇。アームを備え、移動先の艦艇を掴むことができる。図はザンジバル級に搭載されていたタイプ。

■ 脱出艇

緊急時の脱出を目的とした小型艇。図はゼナ・ザビとミネバ・ラオ・ザビが宇宙要塞ソロモンから退避する際に用いたものである。

疑似太陽炉を搭載した水中用MA

GNMA-04B11 トリロバイト
TRILOBITE

■ SPEC

全長	62.2m
重量	——
ジェネレーター出力	——
スラスター推力	——
装甲材質	Eカーボン
武装	クローアーム／アンカー／GN魚雷 他
所属	アロウズ
搭乗者	アロウズ一般兵

■ COMPARISON CHART

■ COLOR

GREEN　WINE RED　BLACK　ORANGE

GNドライヴ
疑似太陽炉であるGNドライヴ［T］（タウ）を3基も搭載し、その出力は通常の「ガンダム」タイプをも上回る。後部のエネルギーチューブの先端と、左右アームの基部に搭載。

後部
後部はウェポンコンテナとして機能。航行時は水の抵抗を減らすためコンパクトに収納されている。4つの部位にわかれ、それぞれに複数の武装を持つ。

▲ 各部収納時

アーム部
潜水艇と大きく異なる点が、水中における格闘戦を可能とする2対のアームであろう。対MS戦闘を前提とした装備で、交戦時に展開。先端は対象物を挟み込むクローアームとなっている。

▲ 各部展開時

胴体部
全幅20.5m、全高6.1m、全長62.2mと、通常のMSの3倍もの大きさを持つ。胴体部にはメインカメラやコクピットが設けられているほか、対艦対地ミサイルなどの武装も搭載されている。

ユニオン工廠が開発したアロウズの水中用MA

とある資産家の女性――「ガンダム」を憎むルイス・ハレヴィによる多額の寄付によって、アロウズは潤沢な運営資金を手に入れた。これにより新型MSの開発だけでなく、水中用MAという限定的な局所でのみ運用可能な、疑似太陽炉搭載の新型までも開発・実用化されている。水中用MAのGNMA-04B11 トリロバイトは、アロウズの莫大な資金力と規模を物語る機体と言えよう。

GNX-704T アヘッドが旧人類革新連盟（人革連）の技術陣によって開発されたように、本機はユニオン工廠の手によるものである。ユニオンといえば、SVMS-01 ユニオンフラッグなど飛行対応型MSに一日の長を持つ。それが一転、水中用MAの開発という別系統の兵器を世に送り出したのである。本来であれば、水中用MAのMAJ-03 シュウェザァイを開発した人革連が得意とする分野であろう。だが、ユニオン工廠は飛行対応型MSで培った技術を活かし、その技術力と応用力の高さを知らしめたのである。なお、型式番号「GNMA-04B11」は4番系統のB装備11番機を意味する。

本機はペルシア湾の入口、ホルムズ海峡近辺でプトレマイオス2の掃討作戦に投入。返り討ちに遭った。

関連ファイル

プトレマイオス2	00-01-21
カティ・マネキン	00-02-27
アロウズの兵士②	00-02-32
西暦のMA	00-03-19
GN粒子とGNドライヴ	00-03-21

FILE PREVIEW

00-02-32　アロウズの兵士②

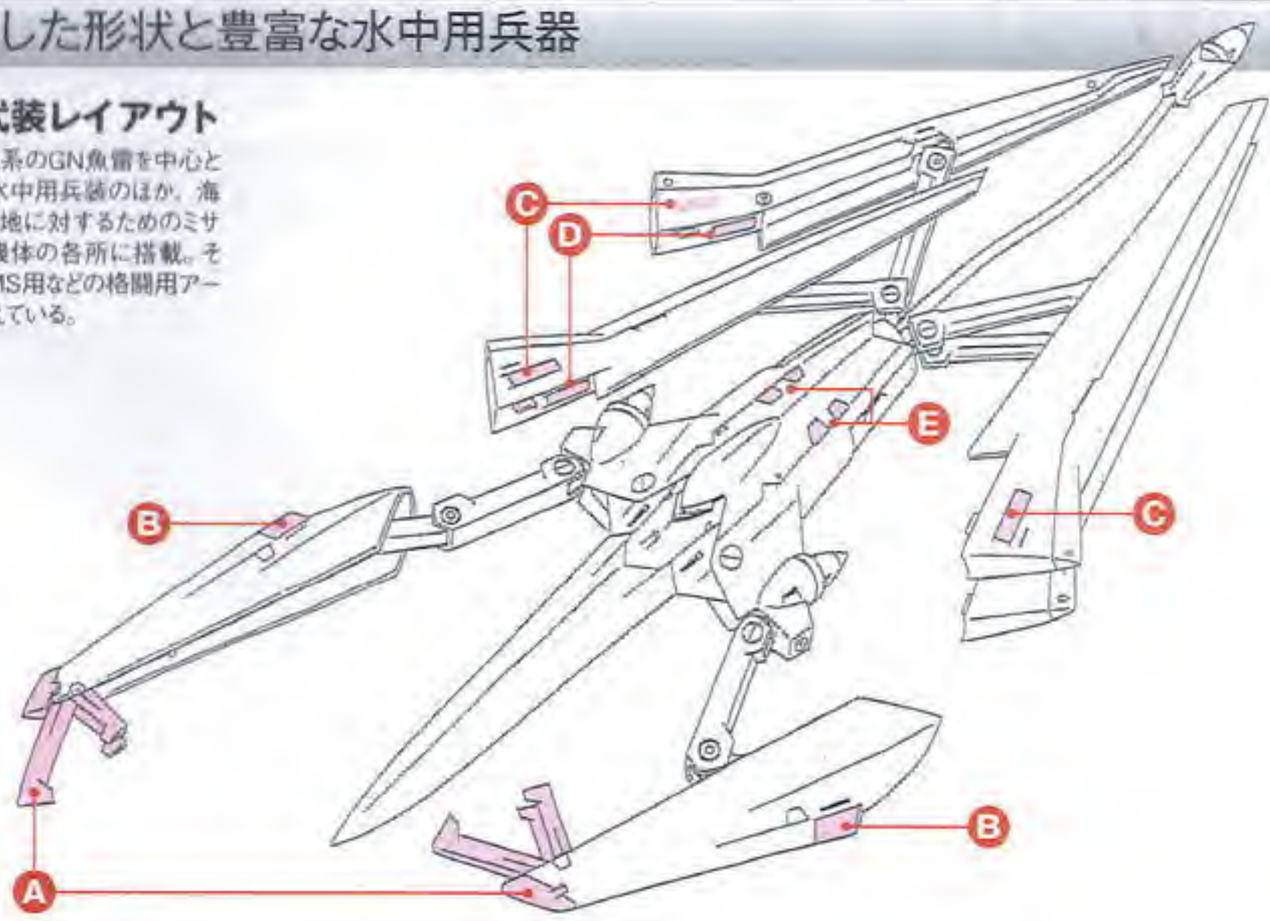
掃討作戦を好むアロウズの指揮官アーバ・リント少佐は、プトレマイオス2が潜んでいる海域に網を張り、水中用のMAトリロバイトを投入した。

機体構造／武装　シュウェザァイを踏襲した形状と豊富な水中用兵器

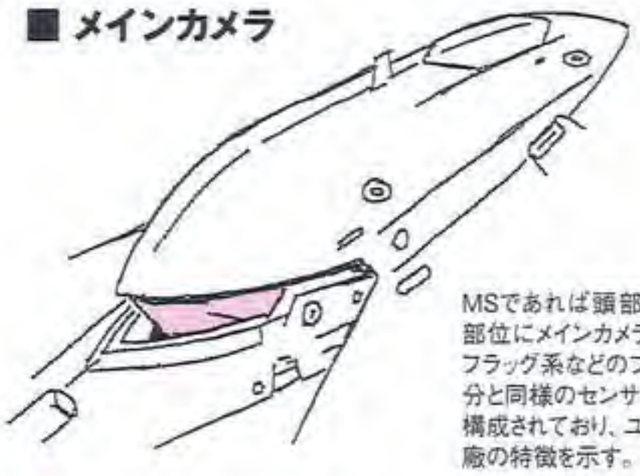
水中における戦闘兵器の機能や形状は疑似太陽炉を搭載しても大きな変化はなく、シュウェザァイを踏襲するように、「非人間型」「作業と格闘用アーム」という構成がトリロバイトにも継承されている。巡航時は水流の抵抗を軽減するためアーム部は折り畳まれているが、交戦時に各部が展開するという可変機構は、ユニオン工廠がフラッグ系で培った得意とする分野であった。武装は豊富な実体弾系を主とし、水中で威力が減じるビーム兵器は備えていない。

■ 武装レイアウト

実体弾系のGN魚雷を中心とした対水中用兵装のほか、海上や陸地に対するためのミサイルも機体の各所に搭載。そして対MS用などの格闘用アームを備えている。



■ メインカメラ

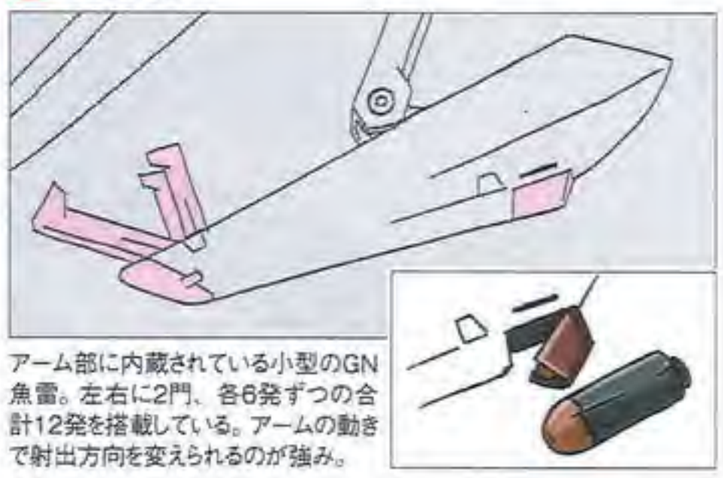


MSであれば頭部にあたる部位にメインカメラを持つ。フラッグ系などのフェイス部分と同様のセンサー素子で構成されており、ユニオン工廠の特徴を示す。

Ⓐ クローアーム／リニアスピア

クローアームはアーム部に折り畳まれて収納されており、その先端に収納されているリニアスピアは、艦艇に突き立てる衝角のような使用法も可能。

Ⓑ 小型魚雷



アーム部に内蔵されている小型のGN魚雷。左右に2門、各6発ずつの合計12発を搭載している。アームの動きで射出方向を変えられるのが強み。

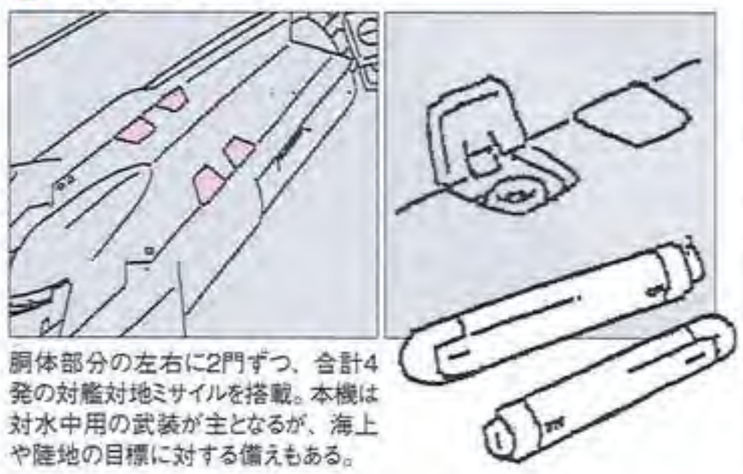
Ⓒ 大型魚雷

後部のウェポンコンテナに内蔵された大型のGN魚雷。4つの各パーツにそれぞれ2門、計24発を搭載する。新型であり、GNフィールドを貫通する能力を持つ。

Ⓓ ケミカルジェリーボム

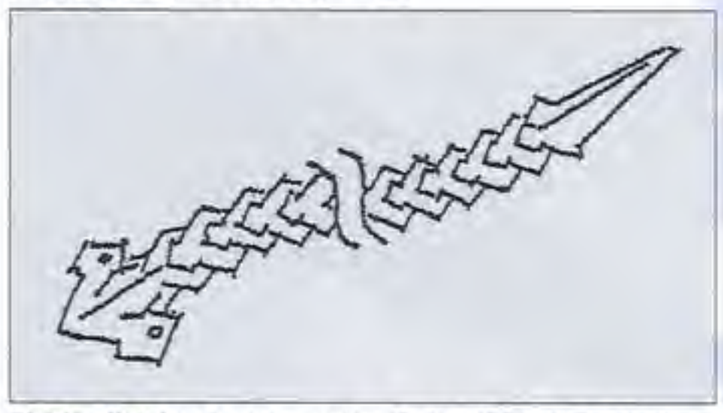
着弾時に合成樹脂が海水を吸って網目状に広がり、目標の動きを阻害する。画像はアロウズの大型海上空母の投下した爆雷による樹脂だが、本機搭載のものも同様と思われる。

Ⓔ 対艦対地ミサイル



胴体部分の左右に2門ずつ、合計4発の対艦対地ミサイルを搭載。本機は対水中用の武装が主となるが、海上や陸地の目標に対する備えもある。

■ チェーンマインワーム

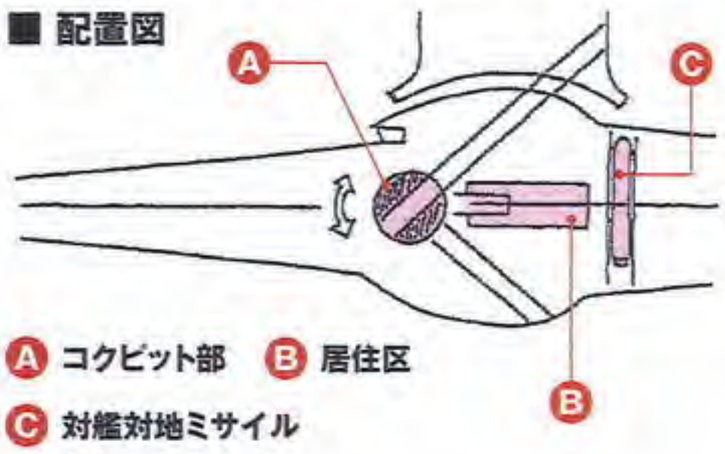


胴体部に搭載されているチェーン状に繋がれた爆弾。敵艦のスクリューやMSの関節などに絡まって、動きを阻害しつつ爆発する。

コクピット　操縦と火器管制を分担した複座式

コクピット構造はフラッグ系のドラム式コクピットが連想される。ここに可変構造で培われたユニオン工廠の技術が活かされているのだ。球形のケージに包まれたコクピット部は、メインカメラのほぼ真下に位置。ジャイロ制御により、機体の動きに関わらずコクピット部を安定させることに成功している。豊富な武装の搭載などで複雑になった操縦は、タンデム方式にすることで対応している。また水中での長期活動を考慮し、専用の居住区が設けられていた。

■ 配置図



Ⓐ コクピット部　Ⓑ 居住区
Ⓒ 対艦対地ミサイル

■ コクピット

前席が全体のコントロールとアームの操作を担い、後席がウェポンコンテナ等の各種火器管制を担当。2名で操作を分担することで負担を減らしている。

MORE INFO!

データ流用機

水中環境に対応したMSは極めて少ないことから、水中からの奇襲は非常に効果的であった。そこで開発されたMSが、GNX-612T/AA スペルビア ジンクスである。その強襲揚陸ユニットのセンサーには、トリロバイトをベースに改良を施したセンサー素子が導入されている。

GNX-612T/AA スペルビア ジンクス 強襲揚陸ユニット
ホバーユニット、ウェポンパック、センサーユニットから構成される水中活動用の増加パーツ。トリロバイトの技術が用いられた。

©創通・サンライズ・MBS

RX-78-4

ガンダム4号機

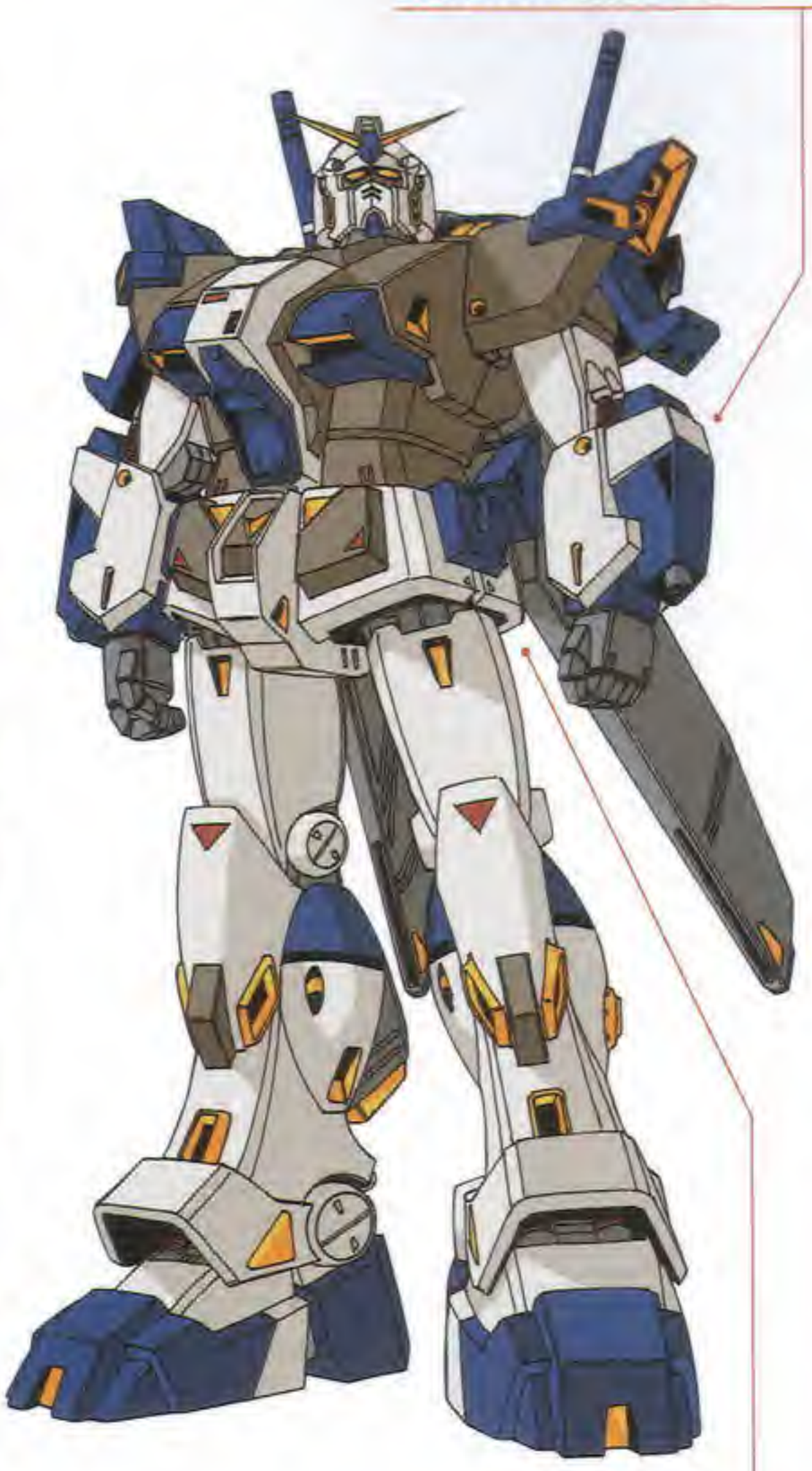
GUNDAM 4th

E.F.S.F.

メガ・ビーム・ランチャーの稼動を目指した4号機

腕部

5号機同様、前腕部にハンド・ビーム・ガンを固定装備する。専用兵装のメガ・ビーム・ランチャーをフルドライブするため、右肩に専用のエネルギー・ユニットを装着するプランが提示されていた。



胴体

5号機と同じく、コア・ブロック・システムを廃止し、強力な冷却システムと高出力ジェネレーターを搭載。出力のさらなる向上を目指して冷却システムを変更したため、5号機とは胸部フィンの形状が異なる。

■ SPEC -RX-78-4 GUNDAM 4th-

全高	——(頭頂高 18.0m)
重量	42.6t(全備重量 80.2t/メガ・ビーム・ランチャー装着時 86.5t)
ジェネレーター出力	1,550kW
スラスター推力	70,500kg
装甲材質	ルナ・チタニウム合金
武装	メガ・ビーム・ランチャー(計画のみ)/ハイパー・ビーム・ライフル/ハンド・ビーム・ガン×2/ハイパー・バズーカ/頭部バルカン砲×2/ビーム・サーベル×2
所属	地球連邦軍

■ SPEC -RX-78-5 GUNDAM 5th-

全高	——(頭頂高 18.0m)
重量	49.2t(全備重量 80.5t)
ジェネレーター出力	1,480kW
スラスター推力	70,500kg
装甲材質	ルナ・チタニウム合金
武装	ハイパー・ビーム・ライフル/ハンド・ビーム・ガン×2/ハイパー・バズーカ/頭部バルカン砲×2 ビーム・サーベル×2
所属	地球連邦軍

■ COMPARISON CHART

■ COLOR

RX-78-4 GUNDAM 4th

RX-78-5 GUNDAM 5th

RX-78-5

ガンダム5号機

GUNDAM 5th

E.F.S.F.

宇宙戦闘能力を強化された5号機

胴体

RX-78-2仕様のガンダムを原型に、宇宙戦仕様に改造。ジェネレーター出力やスラスター推力などが全般的に強化されている。戦闘最大推力時間が延長されたうえ、機動力も40%以上向上した。

脚部

宇宙空間における機動性向上を狙って、脹脛部を中心にサブ・スラスターを追加。5号機とほぼ同じ仕様だが、足部(爪先と踵)の装甲形状に違いが見受けられる。

RX-78-2 ガンダムの宇宙戦仕様改造機

ガンダムの派生機のうち、宇宙戦仕様機がRX-78-4 ガンダム4号機とRX-78-5 ガンダム5号機である。RX-78-2 ガンダムの改造機で、ビンソン計画の完了に伴う宇宙での反攻作戦に投入されることになっていた。

4号機、5号機ともに基本仕様は変わらない。RX-78-2と比べて、ジェネレーター出力やスラスター推力、センサー有効半径などのスペックが向上している。相違点は、4号機の方が高出力で、冷却システムが強化されている点、胸部フィンや一部装甲の形状、機体色などである。4号機の高出力と高度な冷却性能は、メガ・ビーム・ランチャーに対応するためのものである。

開発経緯は少々複雑で、まず両機がRX-78-5の仕様に改造された。その後、メガ・ビーム・ランチャーに対応するための再改造が実施され、4号機のみ、より高出力のRX-78-4仕様に変更されたのだった。

なお、この2機と同一の型式番号、同一名称、ほぼ同じ形状のMSが存在する。G04、G05とも呼ばれる機体だ。同一の機体と思われるが、G04とG05でのみ確認されたオプション装備が存在すること、記録に違いが見られることなどから、ここでは別の機体として扱う。

関連ファイル

RX-78-2 ガンダム	FG-01-03
ビーム・ライフル	FG-03-31
MS用固定兵装	FG-03-36
ガンダム・タイプMSの開発拡大	08-03-05

FILE PREVIEW

FG-01-03 RX-78-2 ガンダム

「RX計画」によって連邦軍が完成させた万能型のMS。携行可能なビーム兵器を装備し、無改装でも様々な環境下における運用が可能であった。パイロットはアムロ・レイ。

機体構造 宇宙用への改造と大出力兵装

ガンダム4号機、5号機の特徴として、宇宙戦を意識した仕様、高出力ビーム兵器の搭載がある。その実現のために施された、RX-78-2からの改造点は以下の通りである。

まず、コア・ブロック・システムを廃止して、冷却システムの搭載、高出力ジェネレーターへの換装が行われた。これにより、ハイパー・ビーム・ライフルを扱うのに充分な出力を得たが、メガ・ビーム・ランチャーの稼働は困難で、4号機はより高出力な仕様に改造された。

宇宙空間を中心とした戦闘能力の向上は、高機動型のランドセルへの換装、機体各部へのサブ・スラスター搭載などによって達成された。結果、戦闘最大推力時間の延長と、40%以上の機動力向上に成功したのだった。

頭部は原型機のRX-78-2とほぼ同じ構造だが、部材レベルのブラッシュアップは行われたようだ。センサー有効半径も6,190mにまで拡大した。

■ ガンダム4号機

4号機の背面。ランドセル左側の可動式サブ・スラスターは除いた状態である。ランドセル中央下のメイン・スラスターは、円形ノズルの2連タイプを採用した。

■ ガンダム5号機

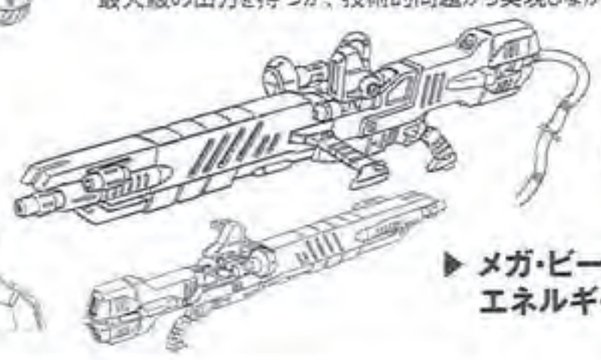
5号機の背面。メイン・スラスターは角型ノズルの2連タイプ。4号機同様、ランドセル下部にはスタビライザーが設置されている。

■ ハイパー・ビーム・ライフル

RX-78-2用のビーム・ライフルより強力な携行メガ粒子砲。ジェネレーター出力の向上により稼働可能となった。

■ メガ・ビーム・ランチャー

全長15mのMS用大型ビーム砲。MS用としては一年戦争最大級の出力を持つが、技術的問題から実現しなかった。



▶ メガ・ビーム・ランチャー・エネルギー・ユニット

RX-78-6

ガンダム6号機

GUNDAM 6th

E.F.S.F.

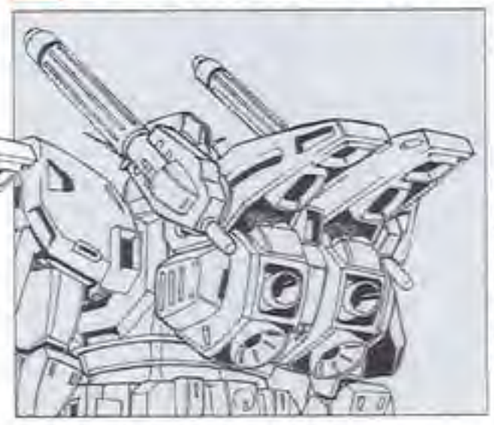
頭部

口部のダクトこそ廃止されたが、基本構造はRX-78-2 ガンダムとほぼ同じ。センサー有効半径は5,900m。

胴体

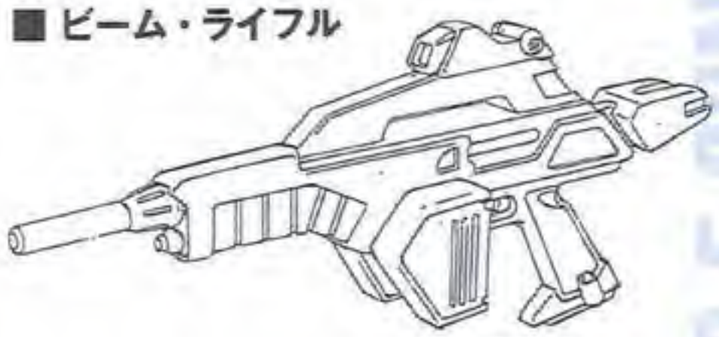
ランドセルに補助火器の300mm低反動キャノン砲を2門装備する。胸部を中心に、装甲も強化されたようである。

A 300mm低反動キャノン砲



支援火器ではなく、ビーム・ライフル再チャージまでの火力不足を補うための補助火器。固定式の実体弾キャノンとしては大口径な部類に入る。

■ ビーム・ライフル



6号機の専用ビーム・ライフル。エネルギー・パック式に近い仕様だったとされるが、完成には至らなかった模様。

■ SPEC

全高	——（頭頂高 18.0m）
重量	84.8t
ジェネレーター出力	1,480kW
スラスター推力	70,500kg
装甲材質	ルナ・チタニウム合金
武装	ビーム・ライフル／300mm低反動キャノン砲×2／ハイパー・バズーカ／頭部バルカン砲×2　4連装グレネイド・ランチャー×2／ビーム・サーベル×2　ハイパー・ハンマー
所属	地球連邦軍

■ COMPARISON CHART

■ COLOR

実体弾キャノン装備の6号機

ビーム・ライフルの問題改善を目指したガンダム

多数の実体弾式火器を固定装備するガンダムが、RX-78-6 ガンダム6号機である。実体弾式火器は、ビーム・ライフルを撃ち尽くした際、再チャージまでの火力不足を補うために採用された。開発（再設計）は、アムロ・レイが搭乗したガンダムのデータをフィードバックする形で、一年戦争後期に行われた。

アムロ機の実働データから指摘された問題点として、ビーム・ライフルのエネルギーを使い切った後の火力不足があった。そこでガンダム6号機は、4連装グレネイド・ランチャーや300mm低反動キャノン砲などの実体弾式火器を固定装備し、ビーム・ライフル再チャージまでの火力不足を補った。

このため大重量化を余儀なくされたが、大型ランドセルや脚部スラスター（ビーム・サーベル用マウント兼用）により、機動性の低下を抑えている。

ガンダム4号機と5号機同様、6号機にも型式番号が同じで、外見が酷似したMSが存在する。マドロックがそれで、やはりガンダム6号機と同一の機体と思われるが、本稿では別の機体として扱った。

©創通・サンライズ

デュオ・マックスウェル
Duo Maxwell

PROFILE

年齢	16歳
所属	L2コロニー群
階級	——
出身	L2コロニー群周辺
技能	MS操縦、戦闘艇操縦、破壊工作

unknown

人類の新たな危機を知り
戦場に舞い戻った「死神」

マリーメイア軍に反抗した「G」チームのパイロット

A.C.（アフター・コロニー）195.12.24、「EVE WARS」の終結により、地球とコロニー国家群を巻き込んだ大規模な戦乱は終わりを告げた。その戦乱を終結に導いた「G」チームは解散し、メンバーもそれぞれの道を歩んでいた。「G」チームのひとりで、ガンダムデスサイズヘルのパイロットであったデュオ・マックスウェルも、非武装・非暴力の姿勢を貫く地球圏統一国家を信頼し、「死神」としての役割から退いていたのである。戦乱終結から1年が経とうとした頃には、カトル・ラバーバ・ウィナーの呼びかけに応じ、愛機デスサイズヘルを放棄。デュオはその戦闘手段すら手放そうとしていた。

だが、その直後、地球圏統一国家に反旗を翻す組織が現れた。トレーズの娘を名乗るマリーメイア・クシュリナーダを指導者とする反乱軍である。彼らは地球圏統一国家の外交官リリーナ・ドーリアンを拉致し、宣戦布告を行ったのだった。

「G」チームのメンバーで、戦友であるカトルの提案を受け、デスサイズヘルを太陽に向けて放棄。非戦を訴える地球圏統一国家を信頼しての行動だった。

マリーメイア軍が蜂起すると、デュオは「G」チームのメンバーであったヒイロ・ユイと連絡、反乱軍の拠点であったX-18999コロニーに潜入する。

CHARACTER —— その人格

ムードメーカーとして活躍した前大戦時と同様、「死神」の名に似つかわしくないポジティブな言動は健在。また、敵を欺くため殴られ役となるなど、仲間のためなら自己犠牲も厭わないスタンスで数々の作戦を成功に導いている。

MSパイロットとしての活躍だけでなく、艦艇の操縦などでその高い能力を発揮。寡黙なヒイロやトロワからも高い信頼を得ていた。

RELATIONS

MAIN MS

XXXG-01D2
ガンダムデスサイズヘル（EW版）

デュオの愛機。レーダーを無効化するハイパージャマーを備えた隠密性の高い機体で、変幻自在の動きで敵機を翻弄する。

関連ファイル

XXXG-01D ガンダムデスサイズ	W-01-03
XXXG-01D2 ガンダムデスサイズヘル	W-01-04
ヒイロ・ユイ	EW-02-01
地球圏統一国家とプリベンター	EW-03-02

FILE PREVIEW

EW-02-01 ヒイロ・ユイ

ウイングガンダムゼロに乗るMSパイロットで、A.C.195の戦乱においても共に戦った仲間。マリーメイアの反乱においてもふたりでX-18999コロニーに潜入している。

PERSONAL PROFILE

デュオ・マックスウェル　EW　FILE 02　SHEET 02A

これでも負け続ける戦いは得意でね！

マリーメイア軍がリリーナを拉致したとの報せを受けたデュオは、「G」チームで共闘したヒイロがその奪還に動くだろうと予測。彼はヒイロと合流し、突撃艇を使ってX-18999コロニーへと潜入を試みる。さらにリーオーを用いて内部へと侵入を果たしたデュオとヒイロだが、マリーメイア軍にはかつての仲間、トロワ・バートンと張五飛（チャン・ウーフェイ）の姿があったことに驚愕。トロワはマリーメイア軍の動向を探るために潜入していたことがのちに判明するが、地球圏統一国家の平和主義に疑問を抱く五飛は、自らの意思で軍へと参加していた。かつての盟友と対峙することにやり切れなさを覚えるデュオであったが、非戦を願う彼は、国家を転覆しようとするマリーメイア軍の軍事行動に反抗を続ける。

デュオはヒイロやトロワ、そしてプリベンターらとの連携により、X-18999コロニーの落下を阻止。さらにカトルとマグアナック隊の活躍により、太陽に放棄した愛機デスサイズヘルが手元に戻ってきた。そして彼は、大統領府を占拠したマリーメイア軍の主力機、サーペントを撃破するため、再び「死神」となって地球に舞い降りるのだった。地上では激しい消耗戦となるも、その平和を守ろうとするデュオたちの想いが市民たちを動かし、マリーメイア軍の鎮圧を果たす。その市民たちの様子を見てその後の平和を確信したデュオは、今度こそ心置きなくデスサイズヘルを爆破したのだった。

Ⓐデュオが着用したノーマルスーツ（図はヒイロ）。ヒイロが着用していたのと同じ民間用で、左肩にポケットを備え、右腰にはポーチを巻き付けている。
Ⓑデスサイズヘルの搭乗時は、スーツなどを着けず普段着で操縦を行った。前回の戦乱時に着ていた牧師服とイメージが共通する黒を基調とした私服だが、赤のインナーが特徴的。

カトルの呼びかけに応じ、デスサイズヘルを放棄したデュオ。戦士であり続けることに拘った五飛と異なり、戦闘自体を好まなかった彼は武力の放棄に積極的であった。

足跡　「死神」として最後の戦い

デスサイズヘルという武力を放棄し、一度は「死神」の名を捨てようとしたデュオ。マリーメイア軍の蜂起によって再び戦場への出撃を余儀なくされたが、今回の戦乱を最後にしたいとの想いは非常に強かった。戦乱を終結させるためなら己の身を捧げても良いと考えており、X-18999コロニー潜入時には、マリーメイア軍に参加するトロワとの繋がりを悟られないように「殴られ役」となるなど、文字通り身体を張って行動したのである。地球に降下後も、デスサイスヘルでサーペントの大部隊と対峙。彼はカトルとトロワ、そしてプリベンターらと連携してサーペント部隊の猛攻を耐え凌ぎながら、ヒイロによる大統領府の奪還、そして平和を求める市民たちの蜂起を待ったのである。そうした自己犠牲の精神が結果的にマリーメイア軍鎮圧へと繋がり、デュオの苦労は報われることになった。

ヒイロに請われたわけではなかったが、彼と連携してX-18999コロニーへの潜入を決行。デュオ自身も、拉致されたリリーナの奪還が先決と考えていたのである。

X-18999コロニーの落下を阻止したあと、デュオは敢えてマリーメイア軍に拘束される。そしてカトルの地球圏への帰還を待って牢獄から脱出するのだった。

ブリュッセル近郊で、サーペント部隊と戦闘を繰り広げたデュオ。変幻自在な動きとビームシザースを用いた格闘戦能力によって多くの機体を撃破している。

戦乱終結後は、前大戦中に親交を深めたヒルデ・シュバイカーとの生活を送っており、ふたりでジャンク屋を切り盛りしていた。

能力　敗北を恐れない精神力

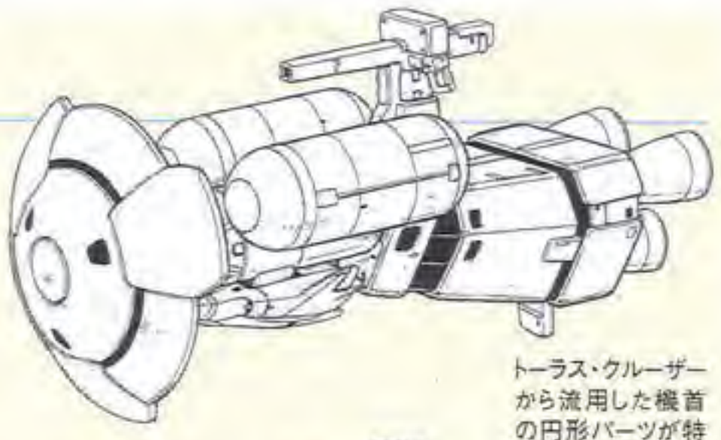
約1年振りの本格的な戦闘に臨んだデュオだが、パイロットとしての腕は錆付いておらず、リーオーやデスサイズヘルを自在に操った。さらに突撃艇の操縦、基地への潜入工作など、かつてスイーパーグループで培ったスキルを存分に発揮。さらに彼の勇敢な戦い振りを支えていたのは、敗北を恐れない屈強な精神であり、危機的状況にあってもポジティブな思考を持ち続けていた。

サーペントの大部隊を前にして、消耗戦を強いられたデュオ。だが、その心は折れることなく最後まで戦い抜いた。

MORE INFO!　突撃艇

デュオはX-18999コロニーへの侵入を試みるため、独自に突撃艇を用意していた。この突撃艇は、機首の円形パーツにトーラス・クルーザーのユニットが流用されているほか、MS用のビームライフルを上部設置するなど、高い機動性能とある程度の戦闘能力を有していた。また、底部には小型のシャトルが設置されており、本体から切り離して飛行することも可能となっている。

デュオはX-18999コロニー周辺に配備された防衛部隊の攻撃を掻い潜り、コロニー本体へと接近。最後は本体から切り離したシャトルで港湾口に辿り着いた。



トーラス・クルーザーから流用した機首の円形パーツが特徴的。推進タンクも2基搭載されており、その機動性は優れていた。

プリベンターの人々

Team of Preventor

PROFILE

年齢	20歳（レディ／サリィ／ノイン）
所属	プリベンター
階級	なし
出身	旧中国自治区（サリィ）
技能	作戦立案・指揮（レディ）、部隊指揮（サリィ）、MS操縦（ノイン）

地球圏統一国家を支え、非武装化を進めた人々の活躍

歴史の陰を活躍の場とし、治安維持に努めた特務員

A.C.195に勃発した地球圏統一連合とWF（ホワイトファング）による戦乱は、5機のガンダムの活躍もあって終結。世界は新たに発足した統治機関、地球圏統一国家の名の下にひとつになった。これまで地球とコロニーに分かれて主権を主張していた人類がついに戦いを放棄し、軍組織を持たない「非武装・非戦」社会を実現する機会を得たのである。だが非武装の理念だけでは平和は訪れず、何より火急の際に国家防衛も覚束なくなってしまう——万が一の事態を懸念した初代大統領は、反体制組織によるテロやクーデターに備えるという名目で、大統領直属の諜報機関「プリベンター」を組織。構成要員として、前年の戦乱終結において重要な働きを示した人材を招集した。こうして極秘裏に誕生したプリベンターは国家が平安である限り、活躍する機会はないはずだった。だがA.C.196、国家の存亡を揺るがすクーデター事件が発生、プリベンターが鎮圧に乗り出したのである。

終戦から1年が経過したA.C.196のクリスマス・イブ。大統領府でのパーティーに参加したプリベンター（レディとノイン）は、これからも平穏が続くことを祈ったとされる。

同じ頃、宇宙を巡回していたホォは資源衛星のひとつに異変を察知。これを皮切りに、のちに「マリーメイアの反乱」と呼ばれるクーデターが様々に実体を現すのだった。

CHARACTER ——— その人格

プリベンターの責任者であるレディ・アンは、OZ総帥トレーズ・クシュリナーダの腹心として、表沙汰にできない事件に多数関与していた。だが彼女の指揮能力と人心掌握術は高く評価され、クーデター鎮圧でもそれが発揮されたのである。

様々な組織の間に立ち、プリベンターの活動を円滑に進めたレディ。大統領の苦言に対しても毅然とした態度を見せるなど、一貫して「非戦」を貫くために辣腕を振るい続けた。

RELATIONS

MAIN MS / MAIN MECHANIC

OZ-12SMS
トーラス

ロームフェラ財団の主導の下、OZが開発したMD（モビルドール）の1機。飛行形態に変形でき、大気圏内外で良好な機動性を発揮する。有人用に改修した機体にノインが搭乗した。

シャトル

極秘活動を旨とするプリベンターに与えられた宇宙艦艇。民間船に偽装しているが、船体に搭載されたコンテナにはミサイルを満載しており、戦闘艦に匹敵する火力を有している。

関連ファイル

OZ-12SMS トーラス	W-01-15
レディ・アン	W-02-10
ルクレツィア・ノイン	W-02-11
サリィ・ポォ	W-02-12
マリーメイアの反乱	EW-03-01
地球圏統一国家とプリベンター	EW-03-02
マリーメイアの反乱（A.C.196の紛争）	EW-03-04

FILE PREVIEW

W-02-10 レディ・アン

OZ総帥トレーズ・クシュリナーダの忠実なる副官。極めて有能かつ冷酷な軍人であると同時に慈愛に満ちた聖母のような人格を秘めており、戦乱終了後に統合されたようである。

レディ・アン

プリベンターの創立メンバーとして現場指揮を担当したレディ・アンは、OZ総帥（トレーズ・クシュリナーダ）に心酔し、彼の片腕となることに心血を注いでいた過去があった。だがトレーズは戦乱の果てに命を落とし、レディは自らのアイデンティティーを見失いかけてしまう。そんな彼女を救ったのは、他ならぬトレーズの遺志だった。数知れない戦いに身を染めた彼は、誰よりも戦乱の愚かさを理解しており、人々に戦いの空しさを示すことで地球圏を安定に導くことを希求していたのである。そんな彼の想いを受け継ぎ、レディは「非戦」を守るための組織プリベンターへの参加を決意したのだった。

時に憂いの表情を覗かせることもあったが、非戦に懸ける想いが揺らぐことはなかった。今は亡きトレーズの遺志を継ぎ、世界から戦乱を一掃することこそが、レディの目指していたことなのである。

サリィ・ポォ

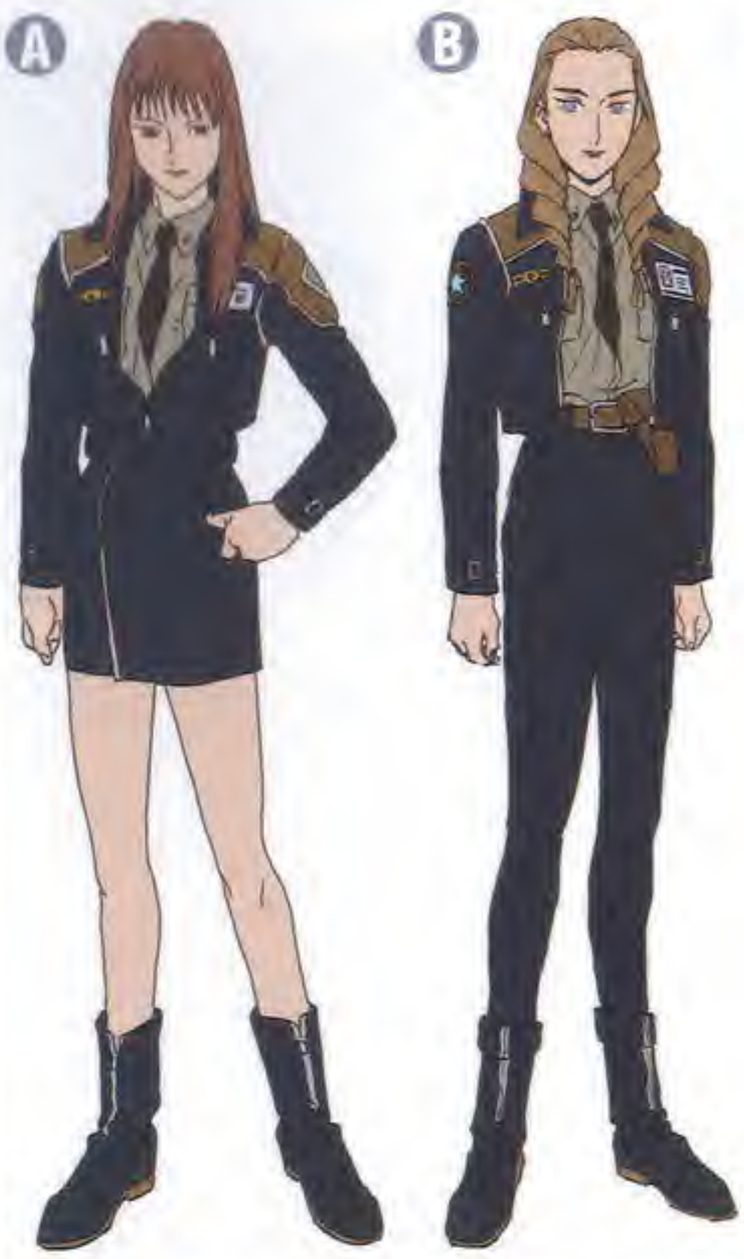
A.C.195の戦乱中にガンダムパイロット（ヒイロ・ユイやデュオ・マックスウェルら）と出会い、地球圏統一連合から離反したサリィ・ポォも、戦後、非戦の意思に賛同してプリベンターに参加。以後、エージェントの一員として地球圏各地を巡回し、テロや反乱の芽を未然に摘み取る任務に就いたのである。そして、廃棄コロニー群を巡回中に、資源衛星MO-IIIからMSの建造に必要な鉱物資源が流出していることに気付いた。これを危険視したサリィは、レディに報告を入れるのと並行して独自に行動を開始。コロニーX-18999でマリーメイア軍が一斉蜂起すると、それに併せて迅速な対応を取ることに成功している。

マリーメイア軍が占拠する施設に潜入し、人質救出を果たしたサリィ。危険を顧みずに敵地へ単独潜入するなど、常に最前線での行動を好み、プリベンターの活動を支えた。

ルクレツィア・ノイン

元OZ士官であるルクレツィア・ノインは、地球圏統一連合とWFとの最終決戦において、密かに想いを寄せていたゼクス・マーキスが行方不明となったことに衝撃を受ける。だが彼の帰還を疑うことはなかった。その後、プリベンターに参加したノインはレディやサリィと共に非戦活動に没頭しているが、その間もゼクスの復活を待ち続けていたのである。そんな彼女の願いは思わぬ形で報われることとなる。「マリーメイアの反乱」を未然に防げなかったプリベンターは苦しい立場に追い込まれたのだが、そこにどこからともなくゼクスが出現。MS戦に挑むノインに協力し、反乱鎮圧に乗り出したのである。

トールギスIIIを駆って戦場に舞い戻ったゼクスを目にしたノインは、感情を押し殺して「1年と2日振りですね」とだけ告げている。とはいえこの一言に、彼女の想いが込められていたのだ。



Ⓐプリベンター本部で作戦指揮を実行する際のレディはタイトなスーツに身を包んでいたが、現場に足を向けた時には、動きやすいジャケットに着替えている。
Ⓑ活動的なボォだけにパンツルックで任務に臨むことが多い。さらに腰には拳銃のホルスターを覗かせており、これは実戦も厭わない意志の強さを感じさせる。
Ⓒノインの服装はレディに近いものがあるが、インナーにはラフなTシャツを着こんでいる。MSパイロットだけあって実戦向けの服装を愛用していたのかもしれない。

戦乱の予兆を感じ取ったサリィとノインはX-18999コロニーへの接近を試みた。その地こそがマリーメイア軍の活動拠点だと察知したからだ。

しかしマリーメイア軍の動きはプリベンターの予想を遥かに上回っており、X-18999コロニーから多数のMS部隊が発進したとの報に、レディは苦渋の表情を浮かべた。

マリーメイア軍に占拠されてしまった大統領府。だがプリベンターも手をこまねいていたわけではなく、ガンダムパイロットをはじめとする協力者と共に反攻作戦に乗り出した。

ガンダムパイロットたちがMSを相手にする一方、大統領府に潜入したレディは、一瞬の隙を突いて人質となっていたリリーナ・ピースクラフトの救出に成功している。

さらに反乱の首謀者デキム・バートンを排除。傀儡となっていたマリーメイア・クシュリナーダを保護し、一連の事件に幕を引いた。

MORE INFO! プリベンターの関係者、協力者

非戦を主軸とする地球圏統一国家にとって、プリベンターのような実戦部隊を保有することは国家体制に矛盾を孕むことと同義である。それでも大統領をはじめとする理解ある者たちの助力があってプリベンターは設立された。さらに政府外にもプリベンターの活動に理解を示す者は存在しており、戦乱勃発に際しては、陰に日向になって協力を惜しまなかった。

■地球圏統一国家大統領

地球圏統一国家のトップに立つ指導者。「非戦・非武装」の精神の下、地球とコロニーの平等統治に心を砕く一方、破壊活動を未然に防ぐためにプリベンターの設立に尽力したとされる。

「マリーメイアの反乱」の際には自ら表に立つわけにいかず、安全な場所からプリベンターの動向を静観するしかなかった。

■ゼクス・マーキス

最終決戦で行方不明となっていたゼクス。しかし「マリーメイアの反乱」の際に姿を現し、「火消しの風・ウインド」としてプリベンターと共闘している。

■ドロシー・カタロニア

OZの上位組織であるロームフェラ財団代表デルマイユ侯爵の孫娘。「マリーメイアの反乱」においては、市民に真の平和の在り様を説き伏せ、戦争根絶のために蜂起させる重要な役を担った。

戸惑う市民に対して「平和を求めるなら市民が立ち上がるべき」と告げ、自分たちの手で停戦運動を始めるように仕向けた。

フラウ・ボゥ
Fraw Bow

PROFILE

年齢	15歳
所属	民間人→地球連邦軍
階級	なし→上等兵
出身	サイド7
技能	オペレーター、看護

E.F.S.F.

芯の強さを内に秘めて戦いに向き合った少女そて

ホワイトベースに身を寄せた心優しき避難民の少女

否応なく戦争に巻き込まれ、戦わざるを得なくなったホワイトベースの少年少女たち。だが、突然に命のやり取りを強要された彼らが、戦場にあっても自分らしさを失わなかったことは、芯の強さの表れだったとも言える。ホワイトベース隊の一員であるフラウ・ボゥは、そうした強さを内に秘めた少女であった。

フラウは一年戦争当時、サイド7に暮らしていたごく普通の少女だった。戦火から離れたコロニーで、ひとり暮らしの幼なじみである、アムロ・レイの世話を焼く変哲のない日々。だが、それはジオン公国軍のサイド7襲撃によって破られ、フラウはアムロたちと共に地球連邦軍の戦艦ホワイトベースへの避難を余儀なくされたのである。そこから始まった若者たちの逃避行は、やがて一年戦争の核心へと連なる長い戦いの日々となった。そしてフラウは、戦争という現実を必死で受け入れながら、その中での自らの在りようを探していったのである。

サイド7の戦闘に巻き込まれてホワイトベースに身を寄せたフラウは、一年戦争の渦中に引き込まれていくことになる。その戦争はフラウに試練を与えるのだった。

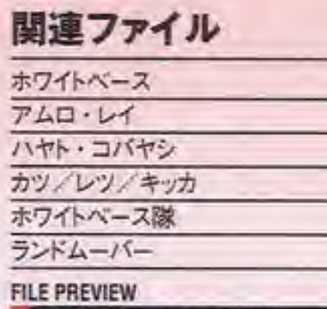
戦いに没頭していくアムロを心配し、その身を案じたフラウ。しかし、戦いの日々はふたりの間に少しずつ溝を作り、お互いの心はすれ違っていくことになる。

CHARACTER ―― その人格

フラウは優しく世話好きな性格であり、カツ・ハウィンら3人の子供たちにもよく懐かれていた。悩みを内に溜め込んでしまう傾向もあったが、人当たりが良く誰からも好かれる少女だったことは確かだったと言える。

ガンダムで出撃することを頑なに拒むアムロを一喝するフラウ。穏やかな性格だが、ここぞというときには向こう見ずで頑固な一面も見せた。

MAIN MECHANIC



ホワイトベース

地球連邦軍が初めてMSの運用を前提に開発したホワイトベース級強襲揚陸艦。RXシリーズMSの母艦として、V作戦に組み込まれた。サイド7襲撃時にフラウたちが身を寄せ、一年戦争の終戦まで活躍した。

RELATIONS

関連ファイル

ホワイトベース	FG-01-27
アムロ・レイ	FG-02-01
ハヤト・コバヤシ	FG-02-03
カツ／レツ／キッカ	FG-02-05
ホワイトベース隊	FG-03-52
ランドムーバー	FG-03-64

FILE PREVIEW

FG-02-01　アムロ・レイ

サイド7に住む機械いじりが好きな少年。父テム・レイが開発したガンダムに偶然から搭乗し、公国軍のザクを退けたことから、パイロットとして戦い続けることとなる。

弱虫のアムロなんて見たくもないし、みんなこうして大人になっていくんでしょ？

ジオン公国軍のサイド7襲撃でホワイトベースに避難したフラウは、人手不足から乗組員として働くことになる。避難民の世話や医療の手伝いに奔走する一方で、ガンダムのパイロットとして戦うアムロを気遣い、健気に世話を焼くフラウ。しかし、アムロは戦いによる心身の疲労から、その心配りに気付くこともできなかった。それでも、フラウはアムロを思い遣りながら、ホワイトベースの乗組員としての務めを果たしていくのだった。

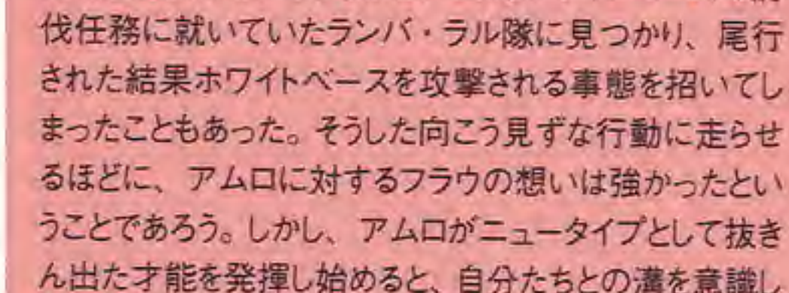
激しさを増していく戦いの中で、フラウはパイロットとなったセイラ・マスに代わって通信士の役目を担うようになる。さらに、ジャブロー基地で上等兵に任官し、より深く戦いに関わっていった。その中でアムロがニュータイプとして覚醒し、同時に様々な経験によって精神的に成長していくのを目撃するフラウ。アムロが自分を置いて大人になっていくことに、フラウは寂しさと疎外感を覚える。だが、その感情を押し込めてフラウは戦いに臨み、一年戦争の終局に向かって歩んでいく。そして、ア・バオア・クー戦で窮地に陥りながらも、アムロの「声」に導かれて脱出を果たし、ホワイトベースの仲間たちと共に終戦を迎えるのだった。しかし、フラウにとってそれは戦いの日々の終わりであると同時に、淡い想いとの決別にもなったのである。

足跡　アムロへの想いとその行動

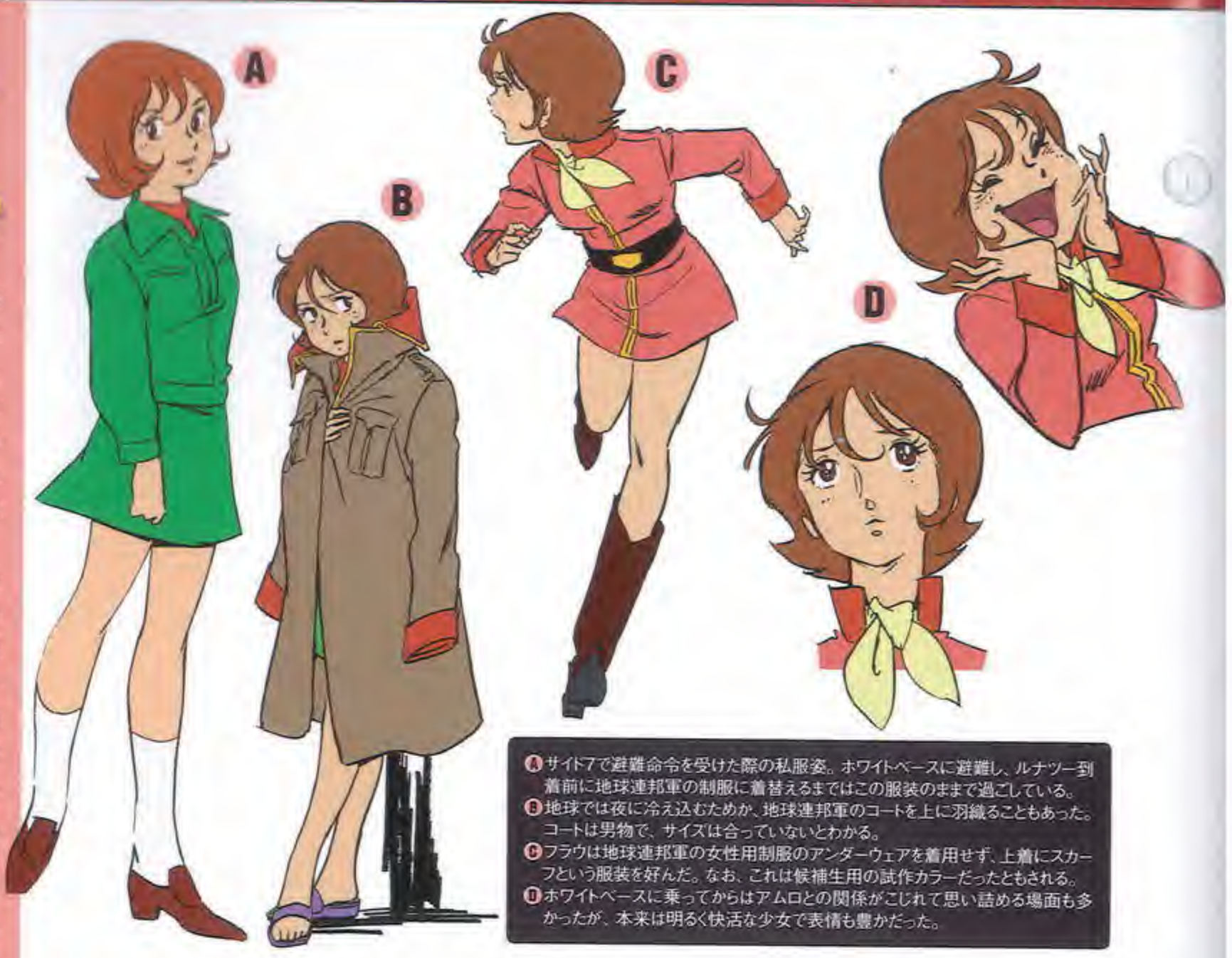
フラウはホワイトベース隊の中にあっては自己主張が多いタイプではなかったが、アムロに関しては大胆な行動を取ることが多かった。その一例として、アムロが度重なる戦闘に疲れて出撃を拒否した際には、彼の代わりにガンダムに乗るとまで語り、アムロの奮起を促した。また、アムロがホワイトベースから脱走した事件では、フラウは厳しく評価される彼を庇い、連れ戻すために単身で艦を降りている。しかし、当時ホワイトベースの討伐任務に就いていたランバ・ラル隊に見つかり、尾行された結果ホワイトベースを攻撃される事態を招いてしまったこともあった。そうした向こう見ずな行動に走らせるほどに、アムロに対するフラウの想いは強かったということであろう。しかし、アムロがニュータイプとして抜きん出た才能を発揮し始めると、自分たちとの溝を意識した言葉も漏らしており、複雑な感情が窺える。

能力　ホワイトベースでのフラウの役割

フラウは特に技能も持っていなかったことから、ホワイトベースに身を寄せた当初は怪我人の手当てや避難民への配給などの雑事を任されていた。その後は、幾度も戦闘を経験したことでブリッジの機材の扱いを覚えたのか、セイラに代わって通信担当を一手に受け持っている。一方で、戦闘行動に直接関わることはほとんどなく、武器を手にしたケースもごく稀であった。



ホワイトベースに避難して間もなく、医療の手伝いに駆り出されるフラウ。その後は、通信士としてホワイトベースの管制を支えた。



Ⓐサイド7で避難命令を受けた際の私服姿。ホワイトベースに避難し、ルナツー到着前に地球連邦軍の制服に着替えるまではこの服装のままで過ごしている。
Ⓑ地球では夜に冷え込むためか、地球連邦軍のコートを上に羽織ることもあった。コートは男物で、サイズは合っていないとわかる。
Ⓒフラウは地球連邦軍の女性用制服のアンダーウェアを着用せず、上着にスカーフという服装を好んだ。なお、これは候補生用の試作カラーだったともされる。
Ⓓホワイトベースに乗ってからはアムロとの関係がこじれて思い詰める場面も多かったが、本来は明るく快活な少女で表情も豊かだった。

フラウはジオン公国軍のサイド7襲撃の際に目の前で母と祖父を失い、恐慌状態に陥る。しかし、アムロの「君は強い女の子じゃないか」という叱咤で我を取り戻し、ホワイトベースに逃げ込むのだった。

ホワイトベースに避難したフラウは軍艦という慣れない環境に戸惑いながらも、同じ境遇の避難民たちを助けて献身的に働いた。その行動は、ホワイトベースにおける避難民の、決して短くない生活を支えた。

ホワイトベースを脱走したアムロをひとりで追いかけ、ソドンの町でランバ・ラル隊に出くわしていた彼を見つける。しかし、帰りをランバ・ラルの部下に尾行されたことが原因で、戦闘を引き起こしてしまう。

ソロモン攻略戦において負傷したハヤト・コバヤシの看病をする中で、アムロへの複雑な思いを垣間見せるフラウ。その後は、ハヤトと親密にしている場面も見られた。

ア・バオア・クー戦では、要塞着底後の白兵戦で3人の子供たちを守り、アムロの思念を受け取ってホワイトベースから脱出。無事に仲間と共に終戦を迎えた。

MORE INFO!　フラウの家族

フラウは一年戦争当時、サイド7で母ファム・ボゥと祖父の3人で暮らしていた。ジオン公国軍による襲撃が起こった際には、3人で一旦は退避カプセルに避難したものの、被害の拡大を恐れて他の避難民と共に港に向かった。しかし、その避難民の列に流れ弾が直撃し、アムロを見つけて列から離れていたフラウを除いたほとんどが犠牲となった。

フラウの祖父（左）と母ファム（右）。共に退避カプセルに避難した際の服装。戦闘の衝撃に揺れるカプセルの中で、フラウを庇いながらも怯えた様子を見せていた。

流れ弾で命を落とした母の亡骸に縋り付いて号泣するフラウ。ホワイトベースに避難してからのフラウは、肉親の死に対する悲しみを表に出すことはなかったが、ひとり涙を流す場面も見られた。

ホワイトベースの乗員
White Base's Crew

PROFILE

年齢	不明(パオロ)／16歳(オスカ)／17歳(マーカー)
所属	地球連邦軍
階級	中佐(パオロ)
出身	——
技能	部隊指揮(パオロ)、オペレーター(オスカ／マーカー)

E.F.S.F.

「V作戦」の中核を担う 新造艦を支えた乗組員たち

地球連邦軍の「V作戦」において重要な役割を担った新造艦、ホワイトベース。その存在自体が主力MSの量産からジオン公国軍の目を逸らすための囮という噂はあった。だが、任務を受けてホワイトベースに乗り込んだ地球連邦軍軍人の使命感と責任感に偽りはなかったと信じられる。それは、初代艦長として指揮を執ったパオロ・カシアスをはじめとする乗組員たちの奮戦を見れば明らかと言えよう。彼らは地球からの航海の途上でシャア・アズナブルの追尾を受け、サイド7で奇襲を受ける。民間人を戦闘に巻き込んだ責任の一端はあったにせよ、ホワイトベースの乗組員たちは艦とV作戦の成果、そしてコロニーを守るために命を懸けて戦った。その結果、正規の乗組員は大半が死傷し、ホワイトベースは訓練生と民間人の手に委ねられることになる。そして、生き残った訓練生たちは正規兵顔負けの働きを示し、ホワイトベースの伝説の一端を担ったのである。

パオロはホワイトベースの艦長として地球連邦軍の「V作戦」の一端を担い、不測の事態に直面しながらも艦を降りる直前まで、自らの役目を全うしようとした。

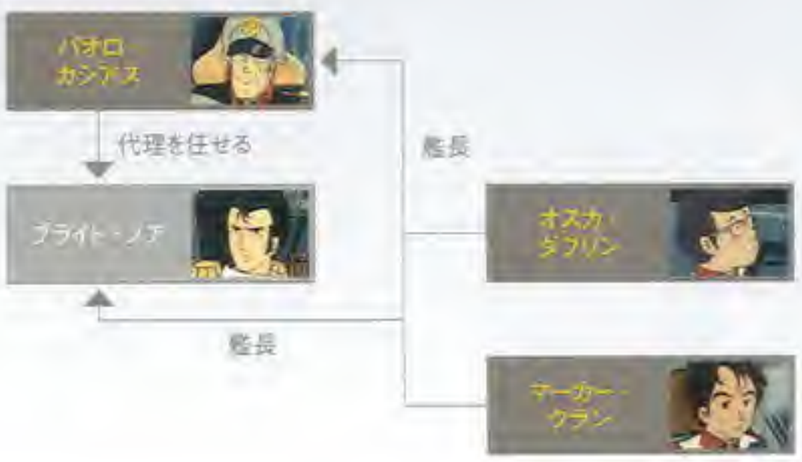
訓練生だったオスカとマーカーのふたりは、ブリッジ・オペレーターとして艦長代行のブライトを補佐し、民間人を中心に構成されたホワイトベース隊を支えた。

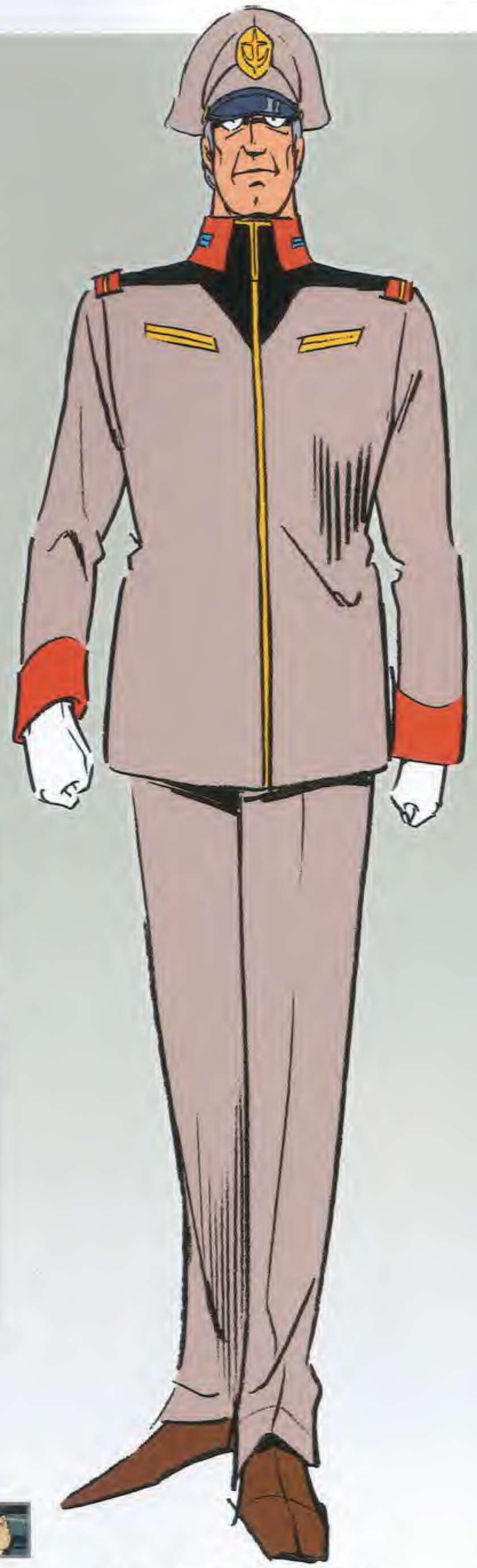
CHARACTER ―― その人格

パオロは思慮深く温厚で、自分が傷付いていても周りを気遣うほどだった。また、柔軟な思考の持ち主で、若者たちに多くの便宜を図った。一方、くだけた調子のオスカに生真面目なマーカーと、訓練生のふたりは対照的な性格だった。

サイド7の防戦で負傷したパオロは、自らを顧みず側に居たリュウ・ホセイの身を案じている。責任感の強い人物だったことが窺える。

RELATIONS





▲パオロ・カシアス

それぞれの奮闘を示したホワイトベースの乗組員

MAIN MECHANIC

ホワイトベース

MSの運用を前提に開発された地球連邦軍のペガサス級強襲揚陸艦2番艦。RXシリーズMSの母艦としてV作戦の中核に位置付けられる。地球で建造され、ルナツーで下艦するまではパオロが艦長を務めた。

関連ファイル

ホワイトベース	FG-01-27
ブライト・ノア	FG-02-08
サイド7遭遇戦	FG-03-05
大気圏突入戦	FG-03-06
ホワイトベース隊	FG-03-52

FILE PREVIEW

FG-03-05 サイド7遭遇戦

連邦軍のV計画を察知した公国軍のシャアは、サイド7に偵察部隊を派遣。そこで戦端が開いてしまい、ホワイトベースの正規兵は大きな被害を受けてしまう。

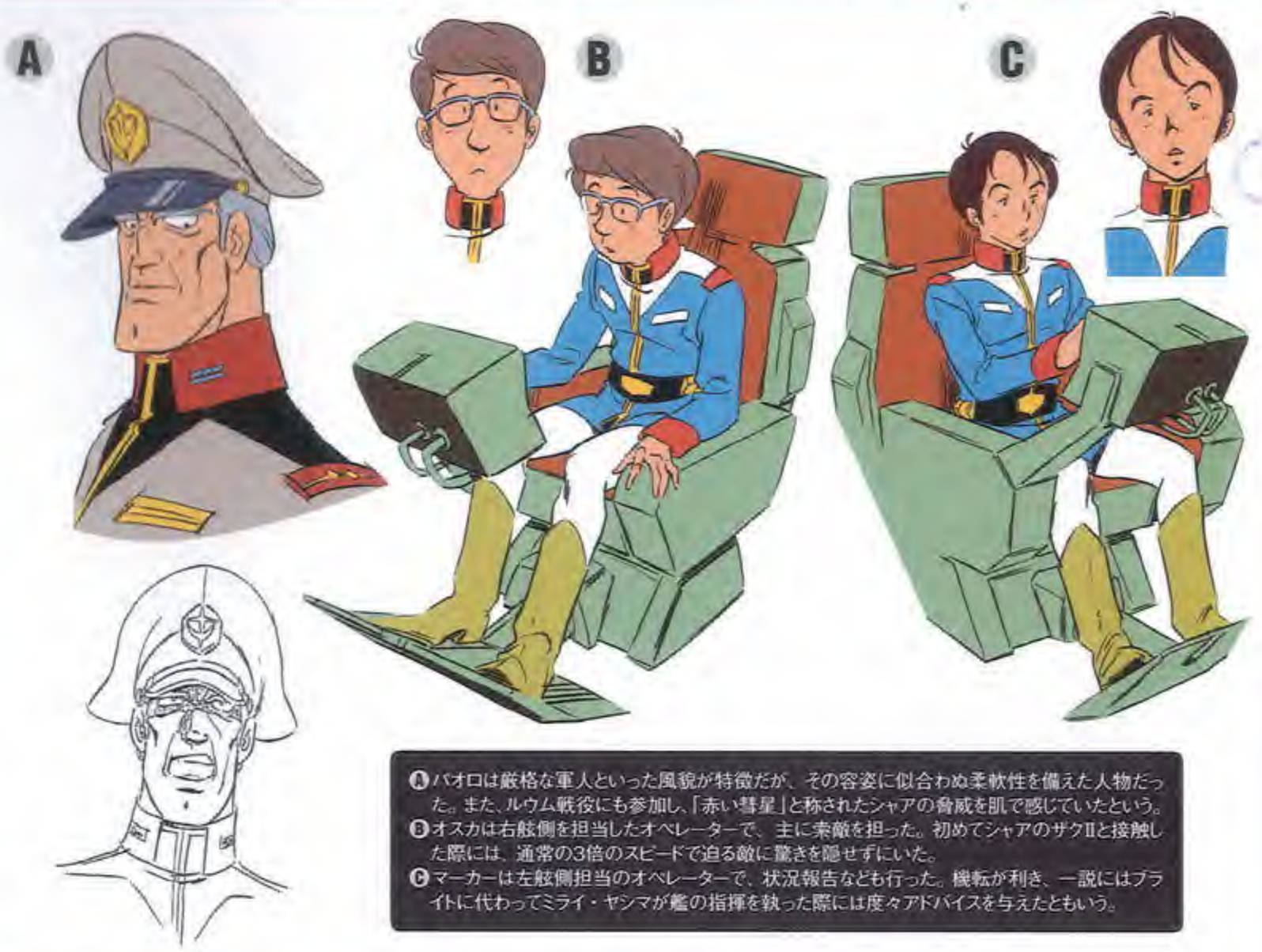
PERSONAL PROFILE

ホワイトベースの乗員 FG FILE 02 SHEET 11A

パオロ・カシアス

パオロはホワイトベースの艦長に任命され、RXシリーズを受け取るためにサイド7を目指した。だが、シャアのファルメルの追跡を振り切れないままサイド7に到着したことから、コロニー内での戦闘を招くこととなる。防戦にあたったパオロは、人手不足の状況でホワイトベースを守るため、自らコロニーの機銃座に着いて戦った。しかし、被弾時に破片を受けて重傷を負い、それでもなおストレッチャーでサイド7からの脱出の指揮を執った。そして、ルナツーに到着後、艦長代行の役目をブライト・ノアに託して自らは艦を降りた（一説にはシャアがルナツーを攻撃した際に死亡し、宇宙葬に付されたともいう）。パオロがホワイトベースの指揮を執ったのはわずかな期間であったが、若者たちに艦を任せたその英断が歴史を作ったのである。

状況を冷静に判断し、柔軟に対応する能力を有した人物であり、民間人でありながらガンダムに乗り込んだアムロ・レイを容認した。アムロにガンダムを任せざるを得ない状況を理解していたのだろう。



Ⓐパオロは厳格な軍人といった風貌が特徴だが、その容姿に似合わぬ柔軟性を備えた人物だった。また、ルウム戦役にも参加し、「赤い彗星」と称されたシャアの脅威を肌で感じていたという。
Ⓑオスカは右舷側を担当したオペレーターで、主に索敵を担った。初めてシャアのザクⅡと接触した際には、通常の3倍のスピードで迫る敵に驚きを隠せずにいた。
Ⓒマーカーは左舷側担当のオペレーターで、状況報告なども行った。機転が利き、一説にはブライトに代わってミライ・ヤシマが艦の指揮を執った際には度々アドバイスを与えたともいう。

オスカ／マーカー

オスカ・ダブリンとマーカー・クランは、ホワイトベースに乗艦していた訓練生の若者で、ジオン公国軍のサイド7襲撃によって正規のオペレーターが死亡したことで、ブリッジ・オペレーターを務めることになった。民間人ばかりとなったホワイトベースにおいては、正規の訓練課程を経験した数少ない人材であり、ふたりのそつのない管制と分析が艦の運行を支えていたと言っても過言ではない。実際、艦長代行を務めたブライトも、ふたりが一番働いているかもしれないと評したという。サイド7から一年戦争を通じてホワイトベース隊で戦い続けたふたりは、ア・バオア・クー攻防戦でほかの乗組員たちと共に脱出を果たし、無事に生き残って終戦を迎えた。決して目立つことはなかったが、その働きはホワイトベース隊に欠かせない力となっていたのである。

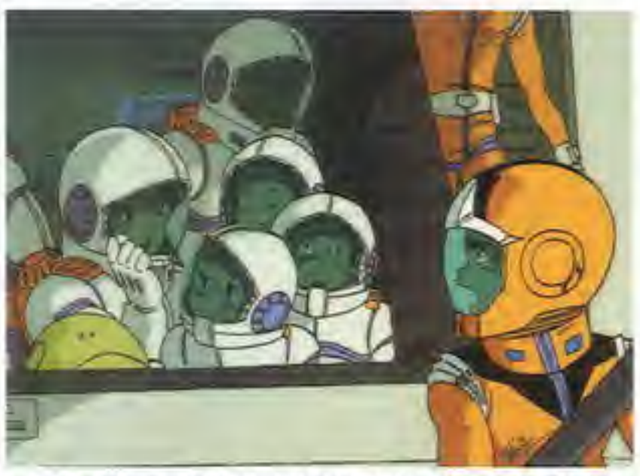
オスカとマーカーはレーダー監視のほか、艦内の各種モニターや艦載機への指示など、様々な役割を担った。その激務に反して交代要員もおらず、ほかの乗組員から感心されたこともあったという。

ホワイトベースの艦長として、パオロはサイド7に赴き、ジオン公国軍による奇襲に遭遇する。その際、コロニー外からの攻撃に対応すべく機銃座に回ったが、被弾時の破片で負傷した。

重傷の身でサイド7からの脱出を指揮し、ホワイトベースをルナツーまで辿り着かせたパオロ。その後は、ブライトらに後事を託して、ルナツーの医療施設に入るため艦を降りた。

訓練生の身でありながら新造艦のオペレーターを任されたオスカとマーカー。やはり経験の浅いブライトと協力し合い、冷静な管制でホワイトベースの運行を支えたブリッジ要員である。

オスカとマーカーは、ホワイトベースの他の仲間たちと共に様々な戦場を経験。同じ訓練生のリュウ・ホセイや憧れの女性士官マチルダ・アジャンなどの死を乗り越えて、一年戦争を戦い抜いた。



ア・バオア・クーでは要塞に着底したホワイトベースで白兵戦に参加したのち、オスカとマーカーは仲間たちとランチで脱出。艦は沈むことになったが、ふたりは生きて一年戦争を終えた。

MORE INFO!

ホワイトベースのブリッジ要員

サイド7襲撃で正規の乗組員の多くを失い、パオロ艦長も降りたホワイトベースは、素人同然のブリッジ要員によって運用された。正規の軍人であるリード中尉が乗艦していた時期もあったが、実際に指揮を執ったのはブライトだった。ホワイトベースは手探りの状態で実戦経験を積み、歴戦の艦へと成長していったのである。

当初は皆経験不足だったが、ホワイトベースとRXシリーズMSの性能にも助けられて数々の実戦を潜り抜け、ニュータイプ部隊と評されるほどの戦果を残していく。

ブライト・ノア
士官候補生としてホワイトベースに乗艦していたブライトは、サイド7襲撃時にパオロの補佐を務めたことから艦長代行を任され、一年戦争を通じて艦を指揮した。

ミライ・ヤシマ
クルーザー級のスペース・グライダーのライセンスを持ち、自ら名乗り出て操舵手を務めた。重力下で艦を上下反転させるという、大胆な操艦も行った。

セイラ・マス
看護学生としてサイド7に居住していたが、ホワイトベースに避難して通信担当のブリッジ要員となる。のちにパイロットとして見出され、戦闘要員に転向した。

フラウ・ボゥ
サイド7の避難民で、当初は医療や生活関係の仕事を担っていた。セイラがパイロットに転向したのち、彼女に代わって通信担当のブリッジ要員となった。

トレーズ失脚とOZの分裂

Downfall of TREIZE
A.C.195

オペレーション・ノヴァとOZトレーズ派の出現

A.C.195、OZは「オペレーション・ディブレイク」で地球圏統一連合を崩壊に導くと共に、コロニーの懐柔を進めた。一連の計画の中でOZがコロニーを武装化させた結果、これを脅威に感じた地球各国は、OZの母体であるロームフェラ財団に接近。ロームフェラ財団は、地球圏の支配体制を確立していった。

さらにロームフェラ財団代表代行デルマイユ・カタロニア公爵は、支配者階級たる財団の力を誇示することで、新たな世界秩序を構築しようとした。この際に用いられた「力」が無人機動兵器モビルドール（MD）である。ロームフェラ財団は、MDの量産体制を確立し、地球上の反財団組織や紛争地域に対してMDを主力とするOZを投入しようと考えていた。これが「オペレーション・ノヴァ」である。

しかし、ロームフェラ財団内にMDの配備に反対する者が現れた。OZ総帥トレーズ・クシュリナーダ上級特佐である。トレーズはこう語って反意を示した。

「デルマイユ公、私はロームフェラ財団の進む道に賛同しかねます。（中略）古き良き伝統とは、人間の奥深い感情が築き上げた労わりの歴史。私は戦うことが時に美しいことと考えると共に、命が尊いことを訴えて失われる魂に哀悼の意を表したい。私は人間に必要なものは絶対的な勝利ではなく、戦う姿その姿勢と考えます。しかし、MDという心無き戦闘兵器の使用を行う、ロームフェラ財団の築く時代は後の世に恥ずべき文化となりはしないでしょうか。また、戦わずにはいられない人間性を無視する完全平和を讃えるなど、宇宙コロニーの思想は、その伝統を知らぬ無知が生み出す哀れな世迷言として感じておりました。しかし、その境遇の中から私の理想を超えた新しい戦士が生まれました。それがガンダムのパイロットたちなのです。彼らの純粋性に満ち溢れた感情の前には、伝統は霞んで見えることでしょう。守るべきものを失い、さらに守ってきたものに裏切られた戦士は歴史上敗者なのです。しかし、彼らにその認識はない。それどころか彼ら自身はまだ戦う意思に満ち溢れているのです。美しく思われた人々の感情は常に悲しく、重んじた伝統は弱者たちの叫びの中に消え失せる。戦いにおける勝者は、歴史の中で衰退という終止符を打たなければならず、若き息吹は敗者の中より培われていく。（中略）私は敗者になりたい」

結果、トレーズはOZの指揮権を奪われ幽閉された。だが、トレーズを信奉するOZの一部がトレーズ派を名乗り、ロームフェラ財団傘下の新生OZ（財団派）と対立した。トレーズ派と財団派の対立は「オペレーション・ノヴァ」の中で武力衝突に発展していく。

（ストー・グラーズ　執筆時期不明）

関連ファイル

トレーズ・クシュリナーダ	W-02-09
ロームフェラ財団の人々	W-02-17
サンクキングダム崩壊	W-03-07
MD（モビルドール）	W-03-13
ロームフェラ財団とOZ	W-03-22

FILE PREVIEW
W-03-22　ロームフェラ財団とOZ

ヨーロッパの貴族などを中心とした、伝統を重んじる集団。地球圏統一連合の資金源となっていた。一方、OZは財団の私兵集団で、スペシャルズとして連合軍内での地歩を固めた。

Illustration by SAYAKA ONO ／Color by TAEKO KUMAGAI ／Background by MASATOSHI KAI

ロームフェラ財団の反抗勢力対策

「オペレーション・ディブレイク」以降、政治工作と軍事行動により地球圏を掌握しつつあったロームフェラ財団とOZだが、反抗勢力も存在した。中でも財団が危険視したのが、ガンダム、OZトレーズ派、そしてサンクキングダムである。ガンダムに対しては、ガンダム自体の破壊とパイロットの処刑、OZトレーズ派にはMD投入を含む軍事制圧といった対策が採られた。サンクキングダムは国是である完全平和主義が財団の方針に反していたため、その波及が警戒されており、財団は軍事侵攻の機会を窺っていた。

Illustration by AKIO UNUMA

1 トレーズ失脚とOZトレーズ派の出現

ロームフェラ財団代表代行デルマイユ・カタロニア公爵が、MDを中心とした軍事力による世界秩序の構築を表明。OZ総帥トレーズ・クシュリナーダはこれに反対したため、デルマイユ公の判断でOZ総帥の座を追われたうえ幽閉処置とされた（トレーズの腹心レディ・アン二級特佐も反逆者として処断され、意識不明の重体に）。しかし、トレーズの幽閉とMD導入に反対したOZの一部がトレーズ派を名乗って反旗を翻し、OZは内乱状態に陥った。

財団の方針と姿勢に反対したトレーズは更迭。トレーズの意を酌んだレディ・アンは、月基地に拘束されていたガンダムパイロットを解放した。

2 オペレーション・ノヴァ実施

財団の指示により、OZ財団派がMDによる反対勢力掃討作戦「オペレーション・ノヴァ」を実施。地球に降下した新型MDビルゴの大部隊は、各地で反抗勢力を駆逐した。MDの攻撃目標には、地球の反財団国・地域だけでなくOZトレーズ派も含まれていた。レディ・アンの策動により、ガンダムパイロットたちの逃走を許した月基地は、新たにふたりのガンダムパイロットを拘束したものの、MS試験時の事故で再び逃げられてしまった。

MDビルゴの性能は圧倒的で、OZトレーズ派のMS部隊を殲滅した。ウイングガンダムゼロを確保した月基地は、技術士官の独断で試験を実施。

3 サンクキングダムの動向

完全平和主義に賛同する国の代表が集う、平和国家会合がサンクキングダムで行われた。これを警戒したロームフェラ財団はOZ実働部隊を派遣、監視した。また、デルマイユ公の孫娘ドロシー・カタロニアが、平和国家建設の教育方針を学ぶ名目でサンクキングダムに送り込まれた（ドロシー自身の意思による）。こうした事態に危機感を覚えたサンクキングダムの近衛兵は、ガンダムの回収とガンダムパイロットとの接触を目指した。

財団は平和国家会合にMD装備のOZを派遣し牽制。地球に降下していたガンダムパイロット（ヒイロとカトル）は、独自にOZ財団派と交戦した。

4 地球での紛争継続

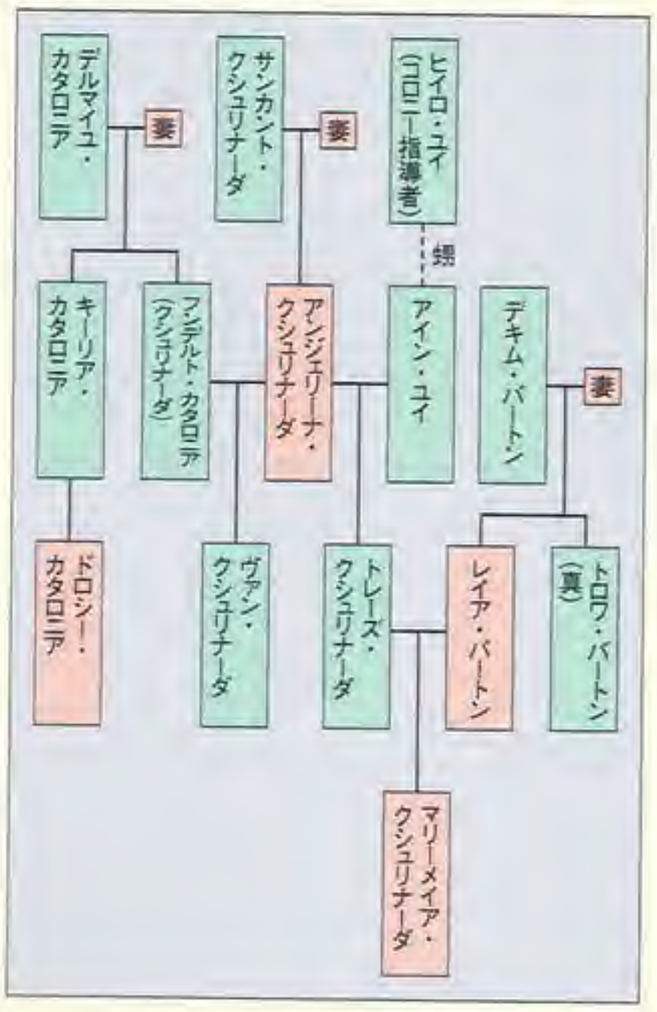
MDビルゴを装備したOZ財団派が各地で反抗勢力を撃破したことで、ロームフェラ財団の支配地域は急速に拡大した。それでもOZトレーズ派を中心とした抵抗は根強く、地球上における紛争は続いていた（宇宙でもOZトレーズ派は抵抗）。ガンダムパイロットのヒイロ・ユイも、OZトレーズ派の傭兵としてOZ財団派と戦った。サンクキングダム防衛隊長ルクレツィア・ノインの介入で救われたヒイロとカトルは、サンクキングダムに向かった。

OZの内紛による被害は一般にも波及。ガンダムパイロットの参加、ウイングガンダムの確保により、サンクキングダムの防衛体制は拡充された。

MORE INFO!

トレーズの家系

A.C.195の紛争において、極めて重要な役割を演じたトレーズ・クシュリナーダは、ロームフェラ財団代表サンカント・クシュリナーダ公爵を祖父に持つ生粋の貴族である。デルマイユ公の義理の孫、コロニー指導者ヒイロ・ユイの甥の子供にもあたると伝えられる。



U.C.の艦艇

Conventional Weapon of U.C.
宇宙世紀の一般兵器

MSの運用を支える空母的戦闘艦

宇宙世紀における艦艇とは軍用宇宙船、つまり宇宙艦艇を指すことが多い。海上艦艇や潜水艦など、旧世紀以来の艦艇の配備も継続されているほか、陸上戦艦や陸戦艇に代表される陸上艦艇、巨大航空機も存在するが、宇宙世紀の艦艇のほとんどは宇宙艦艇である。ただし、全宇宙艦艇が宇宙専用というわけではなく、時代が進むにつれてスペース・コロニー内を含む大気圏内での運用性、特に飛行能力を持つ万能宇宙艦艇が増加している。

宇宙艦艇の誕生は早く、宇宙世紀への移行直前には地球連邦宇宙軍のサラミス級警備艇がすでに配備されていた（後に誕生するサラミス級宇宙巡洋艦とは別のもの）。「警備艇」の分類から推察できるとおり、サラミス級警備艇は全長70mと比較的小型の宇宙艦艇で、トラス式の船体に指揮所、太陽電池パネル、ロケット・エンジン、レーザー砲などを備えていた。後発の大型宇宙艦と比べれば簡素な構造だが、強力な「外敵」が存在しなかった当時としては、必要充分な性能を持っていたと言える。

その後、スペース・コロニー群の完成による人類の生存圏拡大、それに伴う宇宙船の普及などを受けて、「宇宙艦」と呼べる規模の大型宇宙艦艇が誕生した。U.C.0050年代中頃までの宇宙艦艇は、低燃費低推力のプラズマ・ロケットと高燃費高推力の化学燃料ロケットを状況に応じて使い分けるタイプで、武装はミサイルや実体弾式火砲などが多かった。U.C.0055に開発が開始されたという、サイド3のミサイル戦艦パプア級や巡洋艦チベ級が該当する（後にパプア級は補給艦に、チベ級は高速重巡洋艦に改装されたと見られる）。

こうした「大艦巨砲主義」的宇宙艦艇は、宇宙戦闘機を圧倒する航続距離や火力などの利点から、宇宙戦における主力兵器と見なされ、開発と配備が続いた。ミノフスキー・イヨネスコ型熱核反応炉が実用化され、宇宙艦艇に搭載されるようになっても、この傾向は変化しないように思われた。莫大な出力を誇る熱核反応炉、低燃費高推力の熱核ロケット・エンジン、大火力のメガ粒子砲が宇宙艦艇の戦闘能力をさらに向上させる以上、宇宙艦艇に対抗できるのは宇宙艦艇のみだと考えられたのである。結果、宇宙艦隊戦こそが宇宙戦のあるべき姿とされ、地球連邦宇宙軍は宇宙艦艇を骨子とするドクトリンに特化していった。

しかし、レーダーやデータリンクなどの電子機器に依存する宇宙艦艇は、ミノフスキー粒子とMSの前には無力だった。結果、宇宙艦艇は主力兵器の座を降り、MSの運用母艦としての性格を強めていく。

（オットー・カルテンバッハ　U.C.0155）

関連ファイル

ムサイ級軽巡洋艦	FG-01-34
アレキサンドリア	Z-01-36
ネェル・アーガマ	ZZ-01-30
アドラステア	Z-01-41
RX計画とV作戦	FG-03-15
ジオン公国軍のMS開発	FG-03-16
U.C.の一般兵器	FG-03-41

FILE PREVIEW
Z-03-41　U.C.の一般兵器

MSの登場により、戦車や航空機といった旧来の兵器は一線を退くかに思われた。しかし、一年戦争期にはこれらの兵器もMSをサポートするために使用され、MSを撃破するケースも見られた。

Illustration by TAKUYA IO

宇宙艦艇の種別と特殊な艦種

宇宙艦艇という言葉は、比較的大型の「宇宙艦」と小型の「宇宙艇」を含む総称と考えていい。宇宙艦艇を「宇宙戦艦」と総称する場合もあるが、艦艇の種別を指す宇宙戦艦とは別の概念である。

艦艇の一分類である宇宙戦艦は、宇宙艦艇の中でも特に大型の戦闘艦で、火力・防御力・航続距離などに秀でる。地球連邦軍のマゼラン級、ジオン公国軍のグワジン級などが宇宙戦艦の一種である。

宇宙戦艦より一回り小型の艦が宇宙巡洋艦と呼ばれ、主力艦として用いられる。地球連邦軍のサラミス級、ジオン公国軍のムサイ級がその代表である。

他にも、宇宙巡洋艦より小型の宇宙駆逐艦、物資や人員の輸送を担う補給艦や輸送艦、MSや航宙機の運用に特化した宇宙空母などが知られる。ただし、これらは大まかな分類で、艦によっては強襲揚陸艦や軽巡洋艦、大型輸送空母などに分類される。

同じ戦艦でも、マゼラン級は宇宙戦艦、グワジン級は大型戦艦、アドラステア級は強襲戦艦に分類される。軍や機能によって分類が異なるためである。

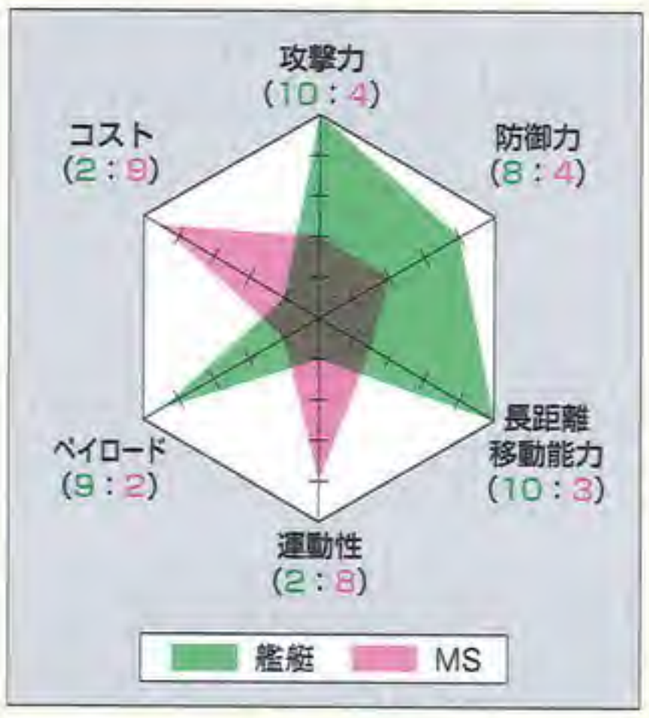
ペガサス(ホワイトベース)級強襲揚陸艦、ザンジバル級機動巡洋艦、アーガマ級強襲巡洋艦などは、大気圏突入能力と単独飛行能力を持つ宇宙艦。

MORE INFO!

宇宙艦艇とMSの性能差

一年戦争の緒戦以後、宇宙艦艇ではMSに勝てないという図式が成立した。しかし、これはMSが一方的に優れていることを意味しない。攻撃力や航続距離、ペイロードの面では宇宙艦艇が優れており、長期間の作戦行動に適する。宇宙艦艇がMS運用母艦としての性格を強めた背景には、こうした特性が存在し、艦艇とMSを共存させている。

サイズが大きいほど宇宙船の航続距離は延びる傾向にある。宇宙艦艇の中には地球圏から火星、小惑星帯、木星にまで到達可能なものも存在する。



宇宙艦艇の構造

水上艦艇の影響を強く受けたと考えられることの多い宇宙艦艇だが、実態は武装宇宙船である。ミノフスキー粒子の散布が一般化すると、MS運用能力の付加、目視や光学機器による監視能力の強化などが図られ、基本形が完成していった。MS運用に特化した空母がほとんど誕生しなかったのは、宇宙艦艇単独に完結した戦闘能力を求めたためと考えられる。

一見古臭い艦橋や砲塔だが、艦の運航や戦闘には必須だ。宇宙服を着用しての艦内生活は乗組員のストレスになるため、高度な気密能力を持つ。

Illustration by TOKIKO YUZAWA (Twin Bell)

宇宙艦艇の役割

MSの主力化を受けて、宇宙艦艇はMSの支援兵器となった。具体的にはMSの運用母艦化、そして火力支援プラットホームである。この傾向は一年戦争以前のジオン公国軍に始まり、次第に地球連邦軍などにも広まっていった。宇宙艦艇が担うMSへの支援は、他の兵器では代替困難なものであり、今後も変化することはないだろう。

戦域後方に到達した宇宙艦艇は、MSを発進させ支援攻撃を行う。戦闘中はMS部隊への指示、帰艦したMSへの補給・修理などを担う。

■ MSの運用母艦

MSの移動基地としての機能。単にMSを輸送するだけでなく、整備や修理が可能なハンガーデッキ、MSを射出するカタパルト、MS部隊の指揮機能など、総合的な運用能力を持っている。

MSの航続距離や作戦行動時間は決して長くないが、移動基地と言える宇宙艦艇から運用すれば、問題点を解決できる。

■ 支援攻撃

遠距離攻撃による敵MSの行動の制限や、敵後方に位置する敵艦隊や拠点を叩くことで、味方MS部隊を支援する。MSへの命中弾は期待しにくいが、支援目的には有効である。

ミノフスキー粒子散布環境下での長距離砲撃は命中率が低いが、相手が艦艇や拠点なら命中弾を望める。対MS戦では足止めが主な目的となる。

MS出現以前の宇宙艦艇の役割

一年戦争勃発以前、宇宙艦艇は宇宙戦の主力と考えられていた。宇宙艦艇が主力と見なされた背景には、長大な航続力、レーダーやデータリンクを駆使した長距離精密射撃能力や索敵能力、強力な艦載火器がある。だが、ミノフスキー粒子がレーダーや電子機器を無力化したため、航続距離以外の宇宙艦艇の長所は封じられてしまった。

地球連邦宇宙軍は大艦巨砲主義的な宇宙艦艇を多数配備し、宇宙艦隊戦に備えていた。マゼラン級やサラミス級が該当する。

MS誕生以前に想定された宇宙艦隊戦は、ルウム戦役の序盤で実現した。しかし、ミノフスキー粒子とMSの登場により戦術は瓦解した。

■ 宇宙戦の主力

火力・射程・命中精度・索敵能力・防御力・航続距離に優れる宇宙艦艇は宇宙戦の主力であった。戦闘形態は、艦列を並べて撃ち合う「宇宙艦隊戦」が想定されていた。

宇宙艦隊戦は、多数の宇宙艦艇が長距離から撃ち合う戦闘。ミサイルは撃墜される可能性が高いため、メガ粒子砲が多用される。

バーミンガム級宇宙戦艦

一年戦争後に就役した、地球連邦軍の巨大宇宙艦。MSが普及した時代にあっても、地球連邦軍には大艦巨砲主義的な傾向が残っていた。

©創通・サンライズ

宇宙艦艇の変遷

宇宙世紀への移行直前に誕生したと見られる宇宙艦艇は、時代と共に発展と大型化を遂げていき、アーセナルシップ（武器庫艦）タイプと思われるプラズマ・ロケット／化学燃料ロケット併用式がU.C.0050年代半ば頃まで使用されたという。その後、ミノフスキー物理学の発展と共に誕生したミノフスキー・イヨネスコ型熱核反応炉搭載式は、熱核ロケット・エンジンやメガ粒子砲などの採用により、その後の宇宙艦艇の基本形を完成させた。MSの開発が進むと、MS運用母艦タイプがジオン公国軍によって実用化され、宇宙艦艇の機能と運用形態はほぼ決定された。

最初期型の宇宙艦艇であるサラミス級警備艇。それから80年近くが経過したU.C.0075.07、史上初のMS運用艦ムサイ級軽巡洋艦が就役した。

一年戦争期

一年戦争以前、レーダーをはじめとする電子機器と強力な艦載火器を駆使する宇宙艦艇が、宇宙戦の主力と考えられていた。しかし一年戦争が始まると、ミノフスキー粒子によって主力兵器はMSへと移り変わった。これに伴い、宇宙艦艇はMS運用母艦や支援兵器へと性格を変えていった。

ミノフスキー粒子の影響で長距離精密射撃や早期索敵が困難となった宇宙艦艇は、MSの移動基地へと変貌していった。

ムサイ級軽巡洋艦

史上初のMS運用母艦で、ジオン公国軍の主力宇宙艦艇。史上初の実戦用MS、MS-05 ザクIの量産が決定したU.C.0075.07に一番艦が就役。運動性とMS運用能力に優れる。後発のMS運用母艦に大きな影響を与えた。

■全長：234m　■全幅：103.2m　■兵装：2連装メガ粒子砲×3、大型ミサイル・ランチャー（145型ミサイル使用）×2、小型ミサイル・ランチャー×10　■MS搭載数：6（4もしくは8とも）　■その他：大気圏突入カプセル「コムサイ」搭載

グリプス戦役期

MSの主力化が決定的となったU.C.0080年代前半に至っても、地球連邦軍では大艦巨砲主義的な宇宙艦艇が建造されていた。だが、次第にMS運用艦の建造や従来艦へのMS運用能力付与が進んだ。MS運用を前提に設計された戦艦空母タイプは、第二世代艦と呼ばれる。

地球連邦宇宙軍の主力艦は、MS運用能力を付与されたサラミス改級宇宙巡洋艦に。艦首にMS運用設備を持つタイプだった。

アレキサンドリア級重巡洋艦

U.C.0080年代前期に就役した、地球連邦軍（ティターンズ）の第二世代艦。一年戦争後の地球連邦軍の新設計艦としては、初のMS運用艦とされる。ムサイ級の設計思想を取り入れつつ、火力と装甲の強化、MS運用能力の向上が図られた。

■全長：不明（推定250m～300mクラス）　■兵装：2連装メガ粒子砲×2、単装メガ粒子副砲×2、2連装機銃×4、単装機銃×4

第一次ネオ・ジオン戦争期

ハイ・メガ粒子砲の装備、バリュートによる大気圏突入能力、ミノフスキー・クラフトを用いた飛行能力と大気圏離脱能力を持つ第三世代艦が登場した。エゥーゴの強襲巡洋艦ネェル・アーガマ、ネオ・ジオンの機動戦艦サダラーンが該当する。ネオ・ジオンの主力艦エンドラ級もミノフスキー・クラフトを搭載。

第二世代艦以上の攻防力だけでなく、大気圏内外での運用性を持つ第三世代艦はオールマイティな宇宙艦艇であった。

強襲巡洋艦ネェル・アーガマ

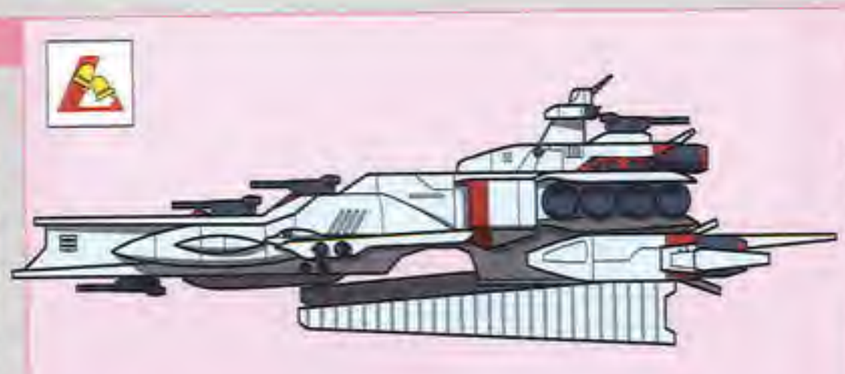
エゥーゴの第三世代艦。分類は機動戦艦で、近代化改修後は強襲宇宙巡洋艦となった。アーガマ級の後継艦で、多数のカタパルトや着艦デッキ、ハンガーデッキにより充実したMS運用能力を持つ。コロニー・レーザー級とされるハイ・メガ粒子砲も搭載。

■全長：380m　■兵装：ハイパー・メガ粒子砲×1、2連装大型砲×3、単装砲×2、単装副砲×2、連装メガ粒子砲×2　■その他：ミノフスキー・クラフト搭載

シャアの反乱期

第一次ネオ・ジオン戦争終結後の新設計艦は、第二世代艦のようにMS運用機能を重視した。指揮能力の喪失を防ぐ戦闘ブリッジや、ジェネレーター出力の向上に対応した外部放熱板などの特徴も持つ。こうした傾向は地球連邦軍、ネオ・ジオンを問わずに存在した。

戦闘ブリッジは指揮機能を艦体内に退避させるもので、脱出ポッドを兼ねる。艦橋が被弾しても指揮能力は失われない。



カイラム級巡洋艦（ラー・カイラム）

地球連邦宇宙軍の新型艦で、ロンド・ベル隊の旗艦。巡洋艦としては大型で、分類は機動戦艦ともされる。アングルドデッキ式の両舷カタパルトデッキや艦尾の着艦デッキなど、MS運用への配慮が窺える。後にミノフスキー・クラフトを増設。

■全長：487m　■兵装：2連装メガ粒子砲×4、ミサイル・ランチャー×6、対空機銃×22ほか　■その他：戦闘ブリッジ搭載。ミノフスキー・クラフト搭載（U.C.0096に増設）

コスモ・バビロニア建国戦争期

U.C.0090年代を最後に、地球連邦宇宙軍の新型艦はほとんど開発されなくなり、既存艦の近代化改修が重視された。連邦体制を揺るがす武装勢力が消滅したと見られたことが大きな理由である。しかし、オールズモビルやクロスボーン・バンガード、木星帝国などの反連邦組織は独自の艦艇を開発した。

U.C.0123に決起したクロスボーン・バンガードの艦艇は、ブリッジの生存性を高めつつ、MSの運用能力を重視していた。

ザムス・ガル級宇宙戦艦

クロスボーン・バンガードの旗艦。他の系列艦同様、艦橋を艦体に収納可能。左右舷側に計4基のカタパルトデッキを擁するほか、MAラフレシアの格納庫を持つ。分離可能な艦首「ガル・ブラウ」は、自律式殺戮兵器「バグ」の運用母艦である。

■全長：不明（推定500mクラス）　■兵装：2連装主砲×5、2連装副砲×2、2連装機銃×6　■その他：自律式殺戮兵器「バグ」運用母艦「ガル・ブラウ」搭載。艦橋構造物収納機能搭載

ザンスカール戦争期

U.C.0140年代末期に勃興したザンスカール帝国は、国軍ベスパ用の新型艦を開発。ベスパ艦はスクイード級やアマルテア級のように上下を意識しない設計が多い。特殊な艦艇として「バイク戦艦」ことモトラッド艦シリーズがある。この時代の艦艇の特徴として、ビーム・シールドの装備が挙げられる。

新型艦の開発に非積極的だった地球連邦軍も、従来艦にビーム・シールドを搭載。ミノフスキー・クラフトも一般化した模様。

アドラステア級強襲戦艦

「地球クリーン作戦」のために開発されたモトラッド艦のひとつ。種別は宇宙揚陸戦艦とも言われる。巨大な車輪により、環境汚染なしに地上施設を破壊する。大気圏内外両用だが地上での戦闘能力が特に高く、MSの肉薄攻撃でも容易に撃破されない。

■全長：426m　■兵装：2連装砲×8、3連装砲×1、連装副砲×2、単装対空砲×35　■その他：航宙・飛行形態、地上走行形態に変形可能。ミノフスキー・クラフト搭載。艦橋構造物収納機能搭載

Illustration by TOKIKO YUZAWA (Twin Bell)

Illustration by TAKUYA IO

大気圏内用艦艇と特殊艦艇

人類の生存圏が宇宙に拡大した時代にあっても、地球が戦略上の要衝である以上、大気圏内用艦艇の重要性は高い。大気圏内用艦艇とは、旧世紀以来の海上艦艇や潜水艦だけでなく、陸戦艇や巨大航空機を含んでいる。ただし、宇宙艦艇が主であるため、特殊機であることに間違いはない。宇宙艦艇にも木星資源船やHLVなどの特殊型が存在する。

水上艦としては地球連邦軍のヒマラヤ級航空母艦が、潜水艦では地球連邦軍のジュノー級やジオン公国軍のマッドアングラー級などが知られる。

■ 大気圏内用艦艇

宇宙世紀に入って誕生した大気圏内用艦艇として、巨大AFV兼移動司令部である陸戦艇、空中におけるMSの運用母艦となる巨大航空機がある。水上艦艇と潜水艦も配備が続いている。

MS運用能力を持つ巨大航空機は、空中艦と呼べる存在。戦略機動性が高く、MSの空挺作戦にも有用。ガウ級攻撃空母を始祖とする。

ガルダ級大型輸送機

地球連邦軍の巨大航空機で、全幅は500m超。ガルダ自身の飛行能力とSFSを組み合わせにより、MSの展開能力を飛躍的に高めた。

ビッグ・トレー級陸上戦艦

地球連邦軍の陸上戦艦。移動司令部としての機能を持ち、大規模地上部隊を指揮する。艦載火器による火力支援も担った。

■ 特殊な宇宙艦艇

宇宙艦艇の中には、極端に巨大なもの、小型のもの、自力航行能力を持たないものなど特殊なタイプが存在する。特殊な艦艇であっても、MSの運用能力や搭載機能を持つものが多い。

大気圏突入、離脱カプセルのHLVも艦艇に含むことがある。HLVはMSを含む物資や人員の輸送用で、打ち上げ以外の自力航行能力に欠ける。

ペスパのシノーペ級宇宙哨戒艇。全長30mに過ぎないが、2機のMSを搭載可能。航続距離は短いため、コロニーや大型艦周辺の哨戒活動を主任務とする。

ジュピトリス級惑星間ヘリウム3輸送艦

全長2,000mの木星ヘリウム輸送船。小規模ながらコロニー機能を有し、工業ユニットではMSも製造可能。核パルス・エンジンを搭載する。

MORE INFO!

艦艇的な機動兵器

巨大機動兵器の中には、艦艇的な性格を持つ機体が存在する。他の機動兵器を多数搭載して移動したり、味方機に補給したりするタイプである。ただし、他の機動兵器への支援は戦域レベルで、艦艇のような長期運用には耐えられない。ティターンズのガンダムTR-6［インレ］、ジオン公国軍のビグ・ラングがその代表として知られる。

サイコミュ誘導型の可変ビット「ハスター」を搭載する可変MAゲミヌスも、艦艇的機動兵器と言えるかもしれない。

RX-124
ガンダムTR-6［インレ］

ガンダムTR-6［キハールII］を6機搭載できる。移送・展開用であり、宇宙艦艇のような長期作戦は困難。

MA-05Ad
ビグ・ラング

「機動前線橋頭堡」のコンセプトで開発されたMA。前線であっても、Adユニット内で味方機への補給や修理が可能。

©創通・サンライズ

マリーメイアの反乱

War and Conflict in A.C.
アフター・コロニーの戦争・紛争

地球圏統一国家と完全平和主義の危機

「オペレーション・メテオ」に始まるA.C.195の動乱は、地球圏の問題となっていた諸組織を壊滅、あるいは弱体化に追い込んだ。圧倒的軍事力を背景に地球とコロニーの不平等を固定化させていた地球圏統一連合、秘密結社OZの母体にして地球圏統一連合に多大な影響力を与えたロームフェラ財団、地球殲滅を唱えるコロニー過激派ホワイトファング、これらが一年にも満たない期間で歴史の表舞台から姿を消したのだ。地球圏統一連合解体後、ロームフェラ財団が打ち立てた世界国家も解散され、新たに誕生した地球圏統一国家が地球圏全域を統治することとなった。

地球圏統一国家は、完全平和主義と地球・コロニー間の平等を掲げ、地球圏に残る問題の解決に取り組んだ。完全平和主義に則った軍の解体と兵器の廃棄、地球とコロニーの平和的調停が進む一方で、地球圏統一国家大統領府は武装勢力の出現を警戒してもいた。しかし、国策で軍と兵器が解体される以上、有事に対応可能な組織は存在しえない。そこで結成されたのが、大統領直轄の秘密情報部「プリベンター」だった。

プリベンターは紛争の事前察知と摘発、または鎮圧を任務とし、解体されたはずの兵器も任務遂行のために装備していた。ただし、地球圏統一国家の大統領府が国策を放棄したのではなく、平和を脅かす武装組織の存在が考えられる以上、完全平和主義実現までの間、紛争を押さえ込む組織が必要とされたのである。

実際、地球圏統一国家誕生後もテロや未遂事件は発生しており、大統領府の想定は決して杞憂ではなかった。それでも、地球圏統一国家が完全平和主義を掲げ、率先して兵器を放棄した以上、プリベンターを公にはできず、その活動は秘密裏に行われた。

こうして、地球圏レベルでの恒久的平和が目指される中、「EVE WARS」後、最大の紛争が発生する。デキム・バートンが実権を握るマリーメイア軍が、地球圏の支配権を奪取すべく決起したのである。

バートン財団の主であるデキムはかつて、カーンズらと結んで「"真の"オペレーション・メテオ」を計画した人物であり、トレーズ・クシュリナーダの義父にあたる。

そのデキムが、トレーズの遺児を名乗るマリーメイア・クシュリナーダを擁立し、地球圏統一国家に宣戦布告したのだ。「EVE WARS」の一年後、A.C.196.12.25のことだった。プリベンターはマリーメイア軍の決起を察知してはいたが、対応には限界があり、軍と兵器を放棄した地球圏統一国家にマリーメイア軍を阻止する力はなかった。完全平和主義は、新たな危機に晒されたのである。

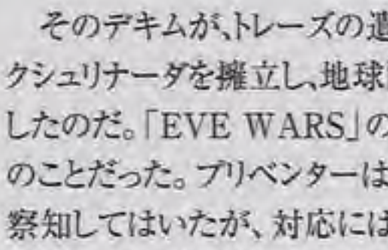
（執筆者、執筆時期不明）

関連ファイル

MMS-Q1 サーペント	EW-01-07
リリーナ・ドーリアン	EW-02-06
マリーメイア・クシュリナーダ	EW-02-09
EVE WARS	EW-03-10
マリーメイアの反乱	EW-03-01
地球権統一国家とプリベンター	EW-03-02
バートン財団とマリーメイア軍	EW-03-03

FILE PREVIEW

EW-03-03 バートン財団とマリーメイア軍



バードン財団の当主デキム・バートンは、「真のオペレーション・メテオ」を完遂するため、マリーメイア軍を編制すると共に地球圏統一国家に宣戦を布告、地球へと侵攻したのだった。

Illustration by TOMOTAKE KINOSHITA

A.C.196の地球圏

「EVE WARS」後、地球圏統一国家の主導で軍の解体と兵器の廃棄が進められたため、地球圏の軍事拠点は順次消滅していった。A.C.196時点で確認されたのは、プリベンターが利用した月基地、マリーメイア軍が拠点化したコロニーX-18999や資源衛星MO-Ⅲ、MD自動生産工場ウルカヌス、地球攻撃用コロニー型ビーム砲などだが、ほとんどは基地機能を喪失または破壊された。

マリーメイア軍が地球降下部隊を配置した、地球近傍の資源衛星MO-Ⅲ。プリベンターの攻撃で破壊された。

「EVE WARS」後の世界情勢

■ 地球圏統一国家の誕生と政策

A.C.195末に誕生した地球圏統一国家は、軍事力を背景とする地球圏統一連合やロームフェラ財団の方針を改め、完全平和主義の実現とコロニーの地位向上を模索した。

地球圏統一国家の意思決定を司る大統領府は、ブリュッセルに置かれた。大統領府はシェルター化されていた。

民主選挙による大統領選出

民主選挙により、地球圏統一国家の大統領が選出。大統領は完全平和主義の同調者だが、現実的な視点も持ち合わせていた。

完全平和主義に沿った政策を進めた、地球圏統一国家初代大統領。レディ・アン曰く「民主的に選ばれたわりには優秀」。

完全平和主義に則った政策の実施

完全平和主義実践の一環として、軍の解体、兵器の廃棄を進めた。戦後補償、雇用制度、経済復興、技術開発なども重視された。

MSやMDに代表される兵器だけでなく、製造施設も廃棄の対象となった。だが、秘密裏に兵器を保有する武装集団は存在した。

コロニーとの共存

かつての不平等関係を改め、地球とコロニーの対等な関係構築を目指した。コロニー自治機構の再検討なども行われたという。

地球とコロニーの関係改善には、リリーナ・ドーリアン外務次官が尽力した（ただし、一年強という短期間で辞任した）。

プリベンターの設立

大統領直轄の秘密情報部「プリベンター」が組織された。兵器の捜索と廃棄、平和を脅かす武装勢力の摘発、鎮圧などを任務とした。

武装勢力と交戦する可能性があるため、秘密裏に残されたMSや艦艇などを保有。レディ・アン、張五飛らが所属した。

■ バートン財団の蠢動

想定とは違う形で「オペレーション・メテオ」を実施され、地球圏支配の機会を逸したデキム・バートンは、マリーメイア軍を組織して決起のチャンスを窺った。

OZ時代に開発されていたMSサーベントを量産。その総戦力は、プリベンターですら阻止困難なものだった。

デキムの野望

A.C.195、カーンズらコロニー過激派と結んでの地球圏支配計画が頓挫したデキムだが、計画を変更して再び軍事行動に出た。

バートン財団のデキム・バートン。「オペレーション・メテオ」では作戦実施直前に息子のトロワ（本物）を失った。

マリーメイア軍の編制

地球圏統一国家を軍事力制圧すべく、私設軍マリーメイア軍を編制。兵器は旧OZのものを中心としつつ、MSサーベントを主力化。

マリーメイア軍の指導者マリーメイア。前計画でも地球制圧後の支配者になる予定だった。まだ幼くデキムの傀儡に過ぎない。

「マリーメイアの反乱」の推移

地球圏統一国家が完全平和主義的政策を進める中、地球圏を支配すべく、デキム・バートンは決起の準備を進めた。新型MSの製造、廃棄を免れた兵器の収拾、旧OZトレーズ派やホワイトファング残党などの人員によるマリーメイア軍編制を経て準備を完了したデキムは、マリーメイア・クシュリナーダを擁立して地球圏統一国家に宣戦布告した。だが、作戦は頓挫することになる。

プリベンターやガンダムのパイロットは、バートン財団の不穏な動きを察知し、行動を開始していた。

A.C.196.12.24　リリーナ・ドーリアン誘拐

決起の準備を完了したバートン財団とマリーメイア軍は、L3コロニーのX-18999に来訪したリリーナ・ドーリアン外務次官を拉致。元世界国家元首リリーナに地球圏の最高位委譲を宣言させ、マリーメイアによる地球圏支配に正統性を与えることが目的だった。

リリーナを拉致したマリーメイア軍は、作戦行動を開始。事態を察知したプリベンターだが後手に回った。

A.C.196.12.25　マリーメイア軍、宣戦布告

マリーメイア、地球圏統一国家に宣戦布告。X-18999の独立も宣言されたがこれはダミーで、X-18999は地球への落下コースに入りつつあった（真のオペレーション・メテオ）。マリーメイア軍は、地球近傍の資源衛星MO-Ⅲに戦力を集結させていた。

X-18999の地球落下は、地球への恫喝とプリベンターの牽制が主目的であった。

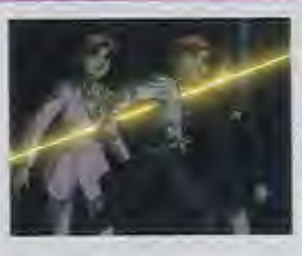
A.C.196.12.26　大統領府制圧

地球降下直前、プリベンターにMO-Ⅲを襲撃されたマリーメイア軍だったが、X-18999の地球落下を予告して牽制し、主力部隊を地球に降下させた。X-18999の地球落下は阻止されたものの、マリーメイア軍はブリュッセル大統領府の制圧に成功した。

デキム、マリーメイア、リリーナらが大統領府入り。大統領府はシェルター機能を使用。

A.C.196.12.26　事態の終息

プリベンターのMSとガンダムがブリュッセルに降下し、マリーメイア軍と交戦。470機のMSサーベントを有するマリーメイア軍の優勢は揺るがないかに思われたが、ウイングガンダムゼロによる大統領府陥落、デキムの死によりマリーメイア軍は武装解除した。


平和を求める市民がブリュッセルに殺到。マリーメイアはデキムに撃たれたが命は取り止めた。

その後の世界

「マリーメイアの反乱」終結後も、いくつかテロ事件が発生したが、地球圏統一国家の基本方針は変化せず、完全平和主義の実現と恒久平和確立を目指した。リリーナ・ドーリアンは外務次官を辞し、次期大統領を目指したが実現しなかったようだ。

後に地球圏統一国家大統領となったというドロシー・カタロニア。マリーメイアも地球圏のために尽力したようである。

リリーナ・ドーリアン
火星のテラフォーミングを目指した。冷凍睡眠後、リリーナ・ピースクラフトとして火星連邦大統領に就任したという。

ゼクス・マーキス
ルクレツィア・ノインと共に、開拓の初期段階にあった火星に赴いた。後に火星連邦初代大統領になったとされる。

MORE INFO!　「マリーメイアの反乱」前後の事件

公にされていないものが多いが、「マリーメイアの反乱」の前後にも、いくつかテロ事件やテロ未遂事件が起こった。コロニー型ビーム砲による地球攻撃未遂事件、旧ホワイトファング一派による要人テロであるウルカヌス事件（以上ふたつの事件はA.C.196に発生）、《次の政府（エピオン・ド・テロス）》によるサンクキングダム・キャッスル占拠（A.C.197.04.07発生）などが該当する。《次の政府》のテロには、火星関係者が関与したと見られる。

■ 地球攻撃用コロニー型ビーム砲破壊

A.C.196春、秘密裏に用意された地球攻撃用コロニー型ビーム砲が、護衛のMD部隊ごと殲滅された。実行したのは、ウイングガンダムゼロを駆るヒイロ・ユイだった。

「EVE WARS」を生き残ったドクターJが、ガンダム・パイロットのヒイロ・ユイに実行させたという。事件自体は未公表。

■ ウルカヌス事件

L4コロニー群の近傍宙域に残っていたMD自動生産工場衛星ウルカヌスを巡って戦闘が発生。ガンダムの介入を受けたウルカヌスは機能を停止し、太陽へ。

OZ-16MSX-D スコーピオ。拠点防衛用の大型可変MSで、ウルカヌスに配備。ガンダムと交戦し撃破された。

©創通・サンライズ

新機動戦記ガンダムW

TIMELINE

A.C.195

OZの台頭と新たな戦乱

地球圏統一連合の特務機関であり、軍事用MSの開発・供給元として連合に貢献してきたOZ。しかし連合の繁栄の陰で力を蓄えていたOZが、現状の地位に満足しているはずもなかった。そしてガンダムの出現を契機に、ついにOZは本性を剥き出しにしたのである。

A.C.195

トレーズ、「オペレーション・デイブレイク」を発動

5機のガンダムを利用して連合軍穏健派を排除したOZ総帥のトレーズ・クシュリナーダは、この暗殺事件はコロニー側からの宣戦布告であると発表。間髪入れずに「オペレーション・デイブレイク」を発動した。命令を受けた連合軍各基地ではOZのMS部隊「スペシャルズ」が一斉にクーデターを起こし、連合軍をOZの支配下に置いてしまった。

トレーズを盟主と仰ぐスペシャルズが中心となって計画は決行。エアリーズを中心とするMS部隊が連合軍基地への侵攻を開始した。

瞬く間に基地施設を掌握したスペシャルズは、続いて司令官を拘束。基地をスペシャルズ（引いてはOZ）の支配下に置くことに成功した。

さらに連合軍内部にもトレーズの理念に賛同する者たちは存在しており、彼らもスペシャルズの蜂起に呼応せて武力活動を始めた。

このようなクーデターが世界各地で一斉に発生し、連合軍および連合政府はOZによってごく短時間のうちに崩壊することとなった。

A.C.195

五飛、トレーズ暗殺に失敗

ニューエドワーズ基地から脱出した張五飛はトレーズ暗殺を画策。単機でトレーズ艦隊を追跡すると、護衛MSを力任せに捻じ伏せて艦内に潜入した。そしてトレーズを発見するや青竜刀を振り上げ、一息に斬り捨てようとする。だが五飛はトレーズの力を軽視していた。サーベルを構えたトレーズは、涼しい顔で五飛の一撃を避けてみせたのだ。

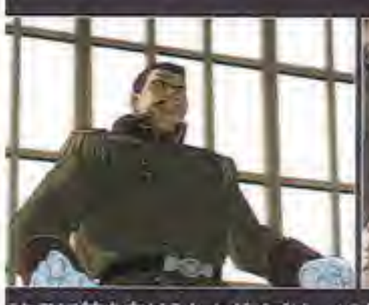
戦士としての能力に絶対の自信を持つ五飛は、単身でトレーズに襲い掛かる。だが逆に相手の剣技に翻弄され、ついに追い詰められてしまった。

力無き者に興味のないトレーズは五飛を見逃してやる。だがこれが五飛のプライドを打ち砕くことになり、戦士として立つ瀬のなくなった五飛は、やり切れない想いを抱えたまま、その場を立ち去るしかなかった。

A.C.195

ゼクス、サンクキングダム跡地を訪問する

OZのクーデターが続く中、ゼクス・マーキスは連合軍本部ルクセンブルク基地の制圧作戦に参加する。だが彼には個人的に果たすべき目的があった。実はゼクスは、今から13年前に連合によって滅ぼされた王国「サンクキングダム」の嫡男であり、王国侵略の指揮を執った連合軍士官（ルクセンブルク基地司令官）に復讐しようとしていたのである。



ゼクスに銃を向けられたダイゴは、13年前の戦いで炎に消えた幼子（サンクキングダムの皇子ミリアルド・ピースクラフト）の面影を見出したようだ。

復讐を成し遂げたゼクスは、忠実な部下の手を借りてサンクキングダム跡地に移動。廃墟となった王宮に掛けられていた王の肖像画に向かって心のうちを独白している。

A.C.195

トレーズ、「オペレーション・デイブレイク」を発動。

スペシャルズによる同時クーデターが世界各地で発生。

連合基地および連合政府施設、スペシャルズに掌握される。

連合による支配体制崩壊。OZおよびロームフェラ財団が台頭する。

五飛、トレーズ暗殺を試みるが失敗。

ゼクス、ダイゴを粛清する。

ゼクス、サンクキングダム跡地を訪問。

MORE INFO!

連合崩壊後の世界情勢

「オペレーション・デイブレイク」を発動し、地球圏の支配体制を確立したOZだが、その陰にはある組織の思惑が存在していた。OZの支援母体であるロームフェラ財団（中心人物はデルマイユ公爵）である。欧州の王侯貴族や特権階級が中心となって設立されたロームフェラ財団の本来の目的は、地球の美しい自然や古き良き伝統の保護だった。だからこそコロニー勢力の台頭には難色を示し、連合軍に肩入れしたのだろう。だが次第に当初の目的を忘れた財団は、戦乱から権益の保護と拡大を目的とするようになり、まず「オペレーション・デイブレイク」によって連合を掌握。さらに圧倒的な軍事力を有するOZそのものを支配下に置くべく無人兵器モビルドールを開発したのである。一方、OZ代表のトレーズとその一派は財団の戦力増強に反対したが、その頃には財団の力は抑えようがなくなっており、逆にトレーズ更迭という事態を招いている。

連合を掌中に収めたデルマイユは、一連の行為についての正当性を説き、ついに新たな支配者の座を獲得することに成功している。

その裏で無人MS部隊（モビルドーム）の配備を急がせたデルマイユは、地球だけでなくコロニーに対する支配権拡大を狙っていた。

NEXT PAGE

A.C.195

ガンダム4機、OZの陽動部隊と交戦

地球からは連合軍首脳暗殺のテロリストとして、コロニー側からは連合の武力侵攻を促進させた者として、非難の対象となったガンダムとそのパイロットたち。だが彼らは当初の任務に従い、世界各地で破壊活動を続けていた。そんな折、大規模なMS輸送計画の情報がもたらされ、五飛を除く4人のパイロットはただちにシベリア地区へ向かった。

OZが陸路と空路を介した大規模MS輸送計画を実施する——情報を得たヒイロたちガンダムパイロットは、作戦が実施されるシベリアに向かうこととなった。

ガンダムパイロットたちは二手に分かれ、デュオとカトルは輸送列車を襲撃する。ところが逆にコンテナの中から現れたMS部隊に囲まれてしまった。

一方、ヒイロとトロワは輸送機部隊を攻撃しようとしたが、その前にゼクスのトールギスが立ちはだかった。実は今回の輸送計画は、ガンダムをおびき寄せるための周到な罠だったのだ。

作戦が計画通りに進行しているとの報告を受けて、静かにほくそ笑むレディ・アン。トレーズに心からの忠誠を誓う彼女は、彼への証としてガンダムを手に入れるつもりだったのだ。

A.C.195

ヒイロ、投降を拒み、自爆を決行する

輸送計画はガンダム入手を目論むOZ特佐 レディ・アンの罠だったが、ガンダムパイロットたちは怯むことなく戦闘を継続し、OZ部隊と互角の戦いを展開する。これに業を煮やしたレディは、降伏しなければコロニーを攻撃すると脅迫。するとドクターJを名乗る人物から降伏を告げる通信が入った。これでガンダムが手に入ると喜ぶレディだが……。

ウイングガンダムを捕獲できないゼクスに苛立ったレディ・アンはガンダムに向けて通信を伝達。戦闘を停止し即時降伏しなければコロニーに対して攻撃を加えると脅迫した。

するとドクターJを名乗る人物から返信が入る。だがその内容はレディ・アンの予想外のものだった。降伏はするもののガンダムは渡せないと言うのだ。

するとドクターJの指示に従うかのようにウイングガンダムが戦闘を停止し、コクピットからヒイロが姿を現した。想定外の展開に、ゼクスもレディ・アンも攻撃の手を止めてしまう。

ヒイロが手にしたスイッチを押すとウイングガンダムは閃光に包まれ、次の瞬間、大爆発した。ヒイロがドクターJの指示に従い、自爆を決行したのだ。

A.C.195

リリーナ、レディ・アンの暗殺を試みる

連合を壊滅させたトレーズは矛先をコロニーへ向け、レディに宇宙に上がるよう指示した。その情報を耳にしたリリーナ・ドーリアンはレディの送別会が催されているパーティー会場に乗り込んだ。彼女の父 ドーリアン外務次官はリリーナの目前でレディに暗殺されており、その仇を自らの手で討とうとしていたのである。

レディ・アンを追ってモスクワを訪れたリリーナは、宇宙に向かうレディのためにパーティーが挙行されることを知った。

父の仇を討つにはこのパーティーが絶好の機会だと考えたリリーナは、外交事務次官の娘という特権を利用して、まんまと会場に潜入することができた。

レディの姿を目にしたリリーナは、何食わぬ顔で近づくと、頃合いを図って拳銃で狙い撃った。しかし銃弾はレディを掠めただけで不首尾に終わってしまう。

会場から脱出を図るリリーナだがOZの追尾は厳しく、今にも拘束されそうになってしまう。そんなリリーナの危機を救ったのは、ゼクスの腹心であるルクレツィア・ノインだった。

A.C.195

レディ、ガンダム捕獲のための作戦を計画。

ヒイロ、OZのMS輸送計画に気付く。

ガンダムパイロット、OZの作戦を阻止するためシベリアに向かう。

ガンダムパイロット、輸送部隊を急襲。しかし輸送作戦は罠であり、逆に窮地に立たされてしまう。

レディ、コロニーへの攻撃を示唆して投降を要求する。

ドクターJ、停戦要求を受諾。ただしガンダム引き渡しは拒否する。

ヒイロ、ウイングガンダムの自爆を決行。

ガンダムパイロット、戦闘エリアから脱出。

ゼクス、自爆したウイングガンダムの残骸を回収。

リリーナ、レディ暗殺のためモスクワに移動。

リリーナ、パーティー会場でレディ暗殺を試みるが失敗。

ノイン、リリーナの脱走に手を貸す。

MORE INFO!

一命を取り留めたヒイロ

ウイングガンダムの自爆現場に立ち会った者の多くは、パイロットのヒイロも機体と運命を共にしたと考えたようである。しかしヒイロは生き長らえていた。爆発の衝撃で地面に放り出され、瀕死の重傷を負ったとはいえ、命を落とすまでには至っていなかったのだ。さらに力なく横たわるヒイロを発見したトロワ・バートンが身柄を回収。自らが隠れ蓑としているサーカス団に連れ帰り、手厚い看護を施したのである。その甲斐あってヒイロは見事に回復し、後遺症が残ることもなかった。とはいえ意識を取り戻すまでには一ヵ月もの時間を必要とし、その間に世界情勢は大きく変わってしまっていた。地球を掌握したOZ(およびロームフェラ財団)は、圧倒的な軍事力を背景にコロニーに侵攻。今にも宇宙を支配下に置く勢いだったのである。さらに5人のガンダムパイロットは散り散りとなり、ヒイロのウイングガンダムに至ってはOZに回収されるという有様だった。だが復活したヒイロから戦意は失われておらず、再度、戦場へと向かっている。

辛うじて一命は取り留めたヒイロだったが、昏睡状態が一ヶ月も続くほどの重傷を負うこととなった。

覚醒したヒイロはトロワから現状を聞かされ、再び戦うことを決意した。たとえガンダムはなくとも、彼は戦士だったのである。

ブレックス・フォーラ
BLEX FORER

地球連邦軍高官であると同時に地球連邦議会に籍を置く議員でもある。ティターンズの台頭を危険視したブレックスは密かに有力者や民間企業に接触し、エゥーゴを結成。その指導者的な立場に就くと、ティターンズの行動を牽制した。さらに議会工作を行い、ティターンズの規模縮小を図った。ティターンズに連邦軍の指揮権を委譲するという議案を撤回させようとしたのもブレックスである。だが決議が行われる直前、ブレックスは何者かによって暗殺されてしまい、志を完遂することなく果てている。しかし彼の遺志はクワトロ・バジーナに引き継がれ、エゥーゴの活動が立ち行かなくなる事態は回避されたのだった。

【ブレックス・フォーラ】ティターンズを抑えるためにエゥーゴを組織したブレックスだが、根本的な解決のためにはスペースノイドの人権についての連邦政府の意識改革が必要だと考えていた。しかしほとんどの連邦議会員はティターンズの傘下に入ることで既得権益の維持を図り、ブレックスの計画は遅々として進まなかった。

プレッシャー
PRESSURE

優れたニュータイプや強化人間が発する感応波は、それを感じ取ったニュータイプには精神的なプレッシャーとして感じられることがある。充分に強力なプレッシャーは相手の戦意を滅じさせたり、肉体的な束縛を生じさせる。そのためニュータイプ同士の戦いでは、プレッシャーによる応酬が積極的に行われることがある。

【プレッシャー】バプテマス・シロッコと戦場で対峙したハマーン・カーンはプレッシャーで相手を圧倒。だがシロッコも負けじとニュータイプ能力を発動。ふたりが発する感応波は視覚的な顕現を成すほど強力なものだった。

[へ]

ベース・ジャバー
BASE JABBER

グリプス戦役の頃に地球連邦軍とティターンズが利用していた大気圏内用SFS（サブ・フライト・システム）。MSを2機搭載した状態で飛行できるほか、底部のホバー・ユニットを使って地上や水面を滑走することも可能である。また機首にはメガ粒子砲が1門搭載されており、火力増強の役割も果たしていた。ちなみにベース・ジャバーの機体コントロールは搭乗したMS側から行っていた。

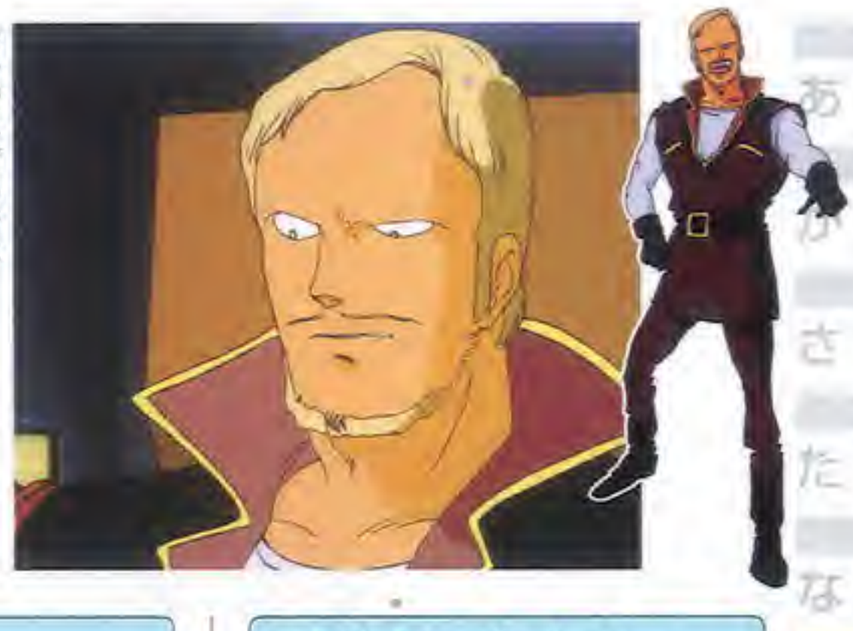
【ベース・ジャバー】熱核ジェットによるホバー・クラフトを推進方式に採用。機体下部には4基のベクタード・ノズルを備える。2機のMSを搭載可能。

ベルトーチカ・イルマ
BELTORCHIKA IRMA

エゥーゴを支援する地上の反地球連邦組織カラバに所属する女性。カミーユ・ビダンとクワトロ・バジーナを宇宙に戻すべく、HLVの打ち上げ設備があるヒッコリー基地までの案内役としてアウドムラと合流した。その際、ニュータイプとして名高いアムロ・レイと出会い、戦いに恐怖する彼の姿に興味を掻き立てられた。そして色仕掛けでアムロを奮起させ、彼の復活を促すこととなるのだが、その性急なやり方は時に周囲の反発を招いた。中でもカミーユとはそりが合わず、ガンダムMk-Ⅱをアムロに譲って欲しいなどと無神経な言動から距離を置かれた。アムロに惹かれる一方で、クワトロのことは快く思っていなかった。ミライ・ノアはベルトーチカをたしなめ、もっとじっくりと他人と付き合っていくことも必要だと諭している。その忠告が功を奏したかどうかは定かではないが、エゥーゴがダカールの地球連邦政府議会を占拠した頃には、激しい感情の起伏は鳴りを潜め、以前は対立したカミーユとも打ち解けた会話ができるようになっていた。ただ、同時にアムロとの仲は次第に疎遠になっていったようだ。

【ベルトーチカ・イルマ】アムロの唇を奪ったベルトーチカは、「女の愛撫で男を奮い立たせることができるのなら、女はそれをするときもあるのよ」と悪びれることなく言ってのけた。アムロは返す言葉を失ったが、結局は彼女の言う通りになったのだった。

【ヘンケン・ベッケナー】ラーディッシュの艦長として知られるヘンケンだが、実はアーガマの初代艦長でもある。ブライト・ノアがエゥーゴへの参加を表明したのを受け、アーガマの艦長職を譲ったのだ。しかしアーガマには想いを寄せるエマが所属しており、それがラーディッシュに移る彼にとって心残りだったようだ。



ヘレンヘレン

ジャブローの地球連邦軍基地からカラバが強奪した大型輸送機アウドムラに備え付けられていた石鹸の銘柄。香りが良いことで女性の間で愛用者が多いらしく、ベルトーチカ・イルマもヘレンヘレンの香りが好きだと口にしている。

【ヘレンヘレン】アムロ・レイからヘレンヘレンの香りを嗅ぎ取ったベルトーチカは、臆面もなく鼻を寄せてみせた。初対面の女性の思わぬ行動にアムロは目を白黒させたが、これがふたりの間の緊張をほぐすことになったようだ。

ベン・ウッダー
BEN WOODER

ブラン・ブルタークの副官を務める男性。ヒッコリー基地での戦闘でブランが戦死して以来、スードリの艦長代理に着任し、アウドムラ追撃を指揮した。その一環としてムラサメ研究所と渡りを付け、強化人間フォウ・ムラサメとサイコ・ガンダムを供出させた。またホンコン特務を使ってミライ・ノア母子を人質に取るなど、目的のためなら手段を選ばない人物である。しかし思ったほどの戦果が挙げられず、操縦プログラムを書き換え、自らサイコ・ガンダムで出撃したこともあった。だが満足に扱えず、フォウにコントロールを奪われ明け渡している。最後にはスードリによるアウドムラへの体当たりを試みた。その際、カミーユ・ビダンを宇宙に上げるため、艦内のブースターを持ち出したフォウに銃を向ける。その後、自ら機銃座に着いてブースターに取り付いたガンダムMk-Ⅱを狙ったが、アムロ・レイのリック・ディアスに葬られた。ちなみに任務には厳しい一方で面倒見は良く、平素から部下に慕われていたようである。スードリでの体当たりを決意した際、直属の部下が退艦命令を拒んだことからも、ウッダーが上官として尊敬を集めていたことがわかる。

【ベン・ウッダー】ブランがティターンズの台頭にいい顔をしなかったのに対し、ウッダーは「今はティターンズの世の中だ」と考えていた。地球連邦軍所属の彼がティターンズの制服に身を包んでいるのは、彼の信念を表すためのパフォーマンスだとも考えられる。

ヘンケン・ベッケナー
HENKEN BEKKENER

アーガマの初代艦長を務めたエゥーゴの中核メンバーのひとり。ブレックス・フォーラやクワトロ・バジーナと共にグリーン・オアシスへの威力偵察に参加し、ガンダムMk-Ⅱ強奪に協力したカミーユ・ビダンを保護した。これは、カミーユがニュータイプであることを期待しての処遇である。同じようにティターンズを離反したエマ・シーンも保護しているが、これはエマを即戦力として期待しただけでなく、彼女にひとめ惚れしたことが要因らしい。実際、ヘンケンは事あるごとにエマにアプローチをしているが、生真面目なエマは彼の想いに応えようとしなかった。それでもめげずにエマを慕い続けたのがヘンケンという人物である。U.C.0088.02.21に発生したコロニー・レーザーを巡る戦闘で、被弾したエマのガンダムMk-Ⅱを庇ったのも、彼女を一心に想ってのことである。そしてエマの無事を確認したのち、艦の爆発に巻き込まれて命を落としたのだった。

[ほ]

ホウセンカ
HOUSENKA

U.C.0083～0087にかけて運用された大気圏突入カプセル。機体サイズは人ひとりがやっと乗れるだけしかなく、武装も施されていない。そのため戦闘には不向きだが、小型という利点を活かしてレーダー網を巧みに回避し、極秘裏に偵察要員を地球に送り込むことができた。アーガマ隊のレコア・ロンドがジャブロー基地への潜入に用いている。

【ホウセンカ】コクピットに余分なスペースはほとんどなく、パイロットは潜り込むようにして搭乗する。その反面、機体サイズに似つかわしくないほど大きなスラスターを搭載していることから、加速性能はかなりのものだと思われる。

ボスニア
BOSNIA

地球連合軍ルナツー駐留部隊に所属するサラミス改級巡洋艦。ライラ・ミラ・ライラが指揮を執るガルバルディβ部隊の母艦でもある。アーガマ追撃任務を実行するティターンズに協力し、サイド1宙域でアーガマ隊と交戦した。しかしこの戦闘でライラは戦死。その後のボスニアの消息も不明である。艦長はテッド・アヤチ。

【ボスニア】通常のサラミス改級と比べて艦体色が濃い青系に変更されている。とはいえ違いはカラーリングのみで、艦の性能に差異はなかったようだ。

ホモ・アビス

U.C.0080年代後半に普及した超小型飛行機のこと。小型ジェット・エンジン付きの翼をハーネスで体に括り付け、2本のレバーと体重移動で飛行するというもので、最高速度や高度は限られるものの、うまく気流を捕まえれば、相当な距離を飛行できる。地球はもちろんコロニー内でも運用可能であり、かつてカミーユ・ビダンはホモ・アビス競技大会で優勝した経験がある。

【ホモ・アビス】レジャー用品として普及しただけでなく、操作が簡単なことから航空機の簡易脱出装置にも採用された。事実、カツ・コバヤシはアッシマーに体当たりを仕掛ける輸送機からホモ・アビスで脱出し、カラバとの合流を果たしている。

ボリノーク・サマーン
BOLINOAK-SAMMAHN

パプテマス・シロッコが設計と製造を行ったPMX系MSのうちの1機。ミノフスキー粒子散布下での偵察・索敵機能を重視した設計が成されており、頭部にはレドーム、左腕にはマルチ・センサーが内蔵されている。また既存の偵察用MSとは異なって武装が充実しているのも特徴のひとつであり、特に右腕の大型シールドに設置されたシザースで標的を捕捉し、捻り潰すといった格闘戦を得意としている。とはいえ他のPMX系MS（ジ・Oやバラス・アテネ）と比較すると火力が低く、偵察機の域を脱することはなかった。そのためか、ボリノーク・サマーンは他のPMX系MSとの連携を前提としていたとされる。だが実際にはほとんど連携は見られず、格闘戦主体の運用が多かった。主な搭乗者はサラ・ザビアロフ。

【ボリノーク・サマーン】マッシブな上半身に細身の脚部といったアンバランスな姿をしているが、意外にも機動性は優秀で、接近戦を挑むZガンダムの首をシザースで押さえ込んだこともある。見た目に騙されると痛い目を見る機体の典型であるとも言えよう。

ホンコン特務

ニューホンコンが独自に組織した警察機構に所属する者のこと。アウドムラがニューホンコンに寄港した際、ニューホンコン市長に掛け合ったベン・ウッダーは、ふたりの特務隊員を借り受けた。そして彼らの調査網を利用してアウドムラに関係あると覚しい人物（ミライ・ノア母子）の身柄を拘束。彼女たちの解放を条件にアウドムラの引き渡しを要求した。しかしアムロ・レイとカミーユ・ビダンの活躍によってミライ母子は無事に救出されている。

【ホンコン特務】ホンコン特務は軍とは関係ない組織であり、本来ならティターンズの指揮下に入る謂われはない。だがティターンズに恩を売るチャンスと見たニューホンコン市長によってベン・ウッダー（中央）に協力することになったのだ。そのため、彼らが親ティターンズ派であるかどうかは不明。

ホンコン土産

地球に降下していたカミーユ・ビダンがアーガマに持ち帰った土産品のひとつ。立体画像を録画したホロテープだが、内容に関してはよくわかっていない。ただしトーレスがしつこく見せるように要求したところを見ると（しかもエマ・シーンの目を盗んで）、なにやらアダルトなものだったのかもしれない。

【ホンコン土産】ブリッジでカミーユと喧嘩したトーレスとサエグサは自習室送りになる。そこでサエグサがホロテープに言及し、トーレスはテープを見せるようカミーユに迫る。その後エマ伝いにトーレスへと渡った。

ま

マイクロウェーブ
MICROWAVE

電磁波の中で最も短い波長を有するもので、マイクロ波と呼ばれることもある。無線や衛星テレビ、レーダーに利用され、送信距離や大気との干渉による減衰がほとんどないという特徴がある。そのため宇宙世紀では、静止衛星軌道上に設置された太陽光発電衛星が発電した電力を地上に送電する際に用いられている。太陽電池公社と呼ばれる半官半民の組織が発電衛星を管理しており、マイクロウェーブに変換した電力を地球各地に送信するのである。

【マイクロウェーブ】レコア・ロンドをホウセンカでジャブローに降下させるための目眩ましとして、エゥーゴは太陽光発電衛星の破壊による混乱を目論む。この作戦により、マイクロウェーブが送信されなくなった北米地区は大規模な停電に陥っている。

マウアー・ファラオ
MOUAR PHARAOH

ティターンズのMSパイロット。ジャブロー基地からの撤退中、必死に生き延びようとするジェリドに興味を引かれ、彼に手を差し出した。それが縁となって彼女はジェリドのパートナーとなり、バプテマス・シロッコの指揮下に入ることとなった。以後、アポロ作戦をはじめとするいくつもの戦闘に出撃し、ジェリドのサポート役を務めている。時に熱くなり過ぎる感のあるジェリドがカミーユ・ビダンとの戦闘で冷静でいられたのは、彼女に負うところが大きかったと言えよう。そんなマウアーに次第にジェリドは惹かれ、彼女も相手の気持ちを受け入れるまでになった。しかしアーガマ撃沈を狙った奇襲戦で、Zガンダムの攻撃からジェリドを庇って戦死している。この時、ジェリドはマウアーの幻影を目にしており、最愛の人を奪われた哀しみからカミーユへの怒りを増大させたということだ。主な搭乗機はハイザック、ガブスレイ。

【マウアー・ファラオ】戦果をものにしてティターンズ内で名を上げるというジェリドの強い意志に賛同したマウアー。だが気持ちが逸るあまりに無茶な行動をしがちな彼を諫め、「あなたの背中は私が守る」と口にした。そしてその言葉どおり、ジェリドを守って散っていったのである。

マクダニエル
MACDANIEL

月面都市アンマンにあるハンバーガーショップ。表向きはごく普通のファーストフード店だが、実はエゥーゴの会合場所のひとつであった。ウォン・リーをはじめとするエゥーゴのスポンサーたちがジャブロー侵攻作戦を決定したのもこの店でのことだが、その強硬な作戦内容にクワトロ・バジーナは顔をしかめてみせた。

【マクダニエル】会合に参加するためにクワトロが訪れたマクダニエル。彼を案内した店員はヘンケン・ベッケナーであり、スポンサーたちの警護のため店員に扮して警護に当たっていたのである。

マサダ
MASADA

カクリコン・カクーラーの部下であるティターンズのMSパイロット。月面都市アンマン近郊でエゥーゴの動向を探っていた。そしてアーガマがアンマンに寄港したことを知り、援軍要請のためにジャマイカン・ダニンガンを訪ねている。

【マサダ】補給物資の交渉のためにアレキサンドリアに姿を見せたマサダ（右）。だが、ちょうどその頃、アンマンではアーガマ隊の動きが活発化しており、カクリコンはマサダの帰りを待たずに出撃している。

マトッシュ
MATOSH

グリーン・ノア2に駐留する地球連邦軍のMP。ジェリド・メサに殴り掛かったカミーユ・ビダンを尋問した。その際、カミーユをエゥーゴの関係者と決めつけたマトッシュは容赦のない質問を浴びせ、相手が口を割らないとみるや、警棒でしたたかに殴り付けている。しかしこの行為がカミーユの恨みを買い、のちに過剰な仕返しを受けることとなった。

【マトッシュ】弁護士の到着が遅れているのをいいことにカミーユ（左）をネチネチと締め上げるマトッシュ（右）。しかしこの後、ガンダムMk-Ⅱを強奪したカミーユからバルカンで威嚇され、思わぬ醜態を晒している。

お買い忘れなく安心！発売日をメールでお知らせします！ ご登録ください

発売日お知らせメール♪

PC用 http://deagostini.jp/oshirase/gpf/

携帯用 http://deagostini.jp/gpf/ 携帯用QRコード

COMING NEXT ISSUE..

《次号予告》

LINE UP

第45号　ラインナップ

MECHANIC FILE メカニックファイル

- ザクIIF2型
- グワデン／ドロワ
- ゲルググ
- オーバーフラッグ
- ガンダムアストレイ ゴールドフレーム

PERSONAL PROFILE パーソナルプロファイル

- エギーユ・デラーズ
- ノイエン・ビッター
- キシリア・ザビ
- ア・バオア・クーのジオン兵

WORLD GUIDE ワールドガイド

- デラーズ宣言
- ア・バオア・クー攻略戦
- デラーズ・フリート

U.C.TIMELINE 宇宙世紀年表

- キンバライド基地攻略戦

GLOSSARY ガンダム用語辞典

- 『機動戦士Zガンダム』用語集

第45号　定価590円（税込）　**7月31日（火）発売**
※地域によって発売日が異なる場合があります。

ノイエン・ビッター

ガンダムアストレイ ゴールドフレーム

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』特製リングバインダーの利用方法

1 週刊「ガンダム パーフェクト・ファイル」を各ページごとに、ていねいに切り離します。

2 ディバイダーを使って6つの章に分類し、各ページをファイルナンバーにしたがってファイリングします。

3 毎号同じようにして、全ての章をファイリングしていきましょう。

4 全号集めると、ガンダムのことがすべてわかる、ビジュアル大百科になります。

切り離した表紙を大切に保管できる、
表紙用ポケットファイル発売中!!

当社通販にて発売中！

デザインは3種類。
詳しくは、デアゴスティーニセレクト通販サイトをご覧ください。

http://deagostini.jp/select/

週刊「ガンダム パーフェクト・ファイル」全員プレゼントの応募券です。切り取って専用応募ハガキに貼り付けて、ご応募下さい。詳しくは定期購読のお知らせ用紙をご覧下さい。
応募券 GPF-N 44

THE OFFICIAL

GUNDAM PERFECT FILE

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

44

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル No.44

2012年8月7日発行
発行所：〒104-6205 東京都中央区晴海1-8-12 トリトンオフィスタワーZ 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
書店専用注文センターTEL:03-5212-5311（月～金9:30～17:30 土日祝日を除く） FAX:03-5212-5312 書店専用注文WEBサイト:http://dbooks.net/

のMS❶
G-01D2 GUNDAM DEATHSCYTHE HELL EW VERSION

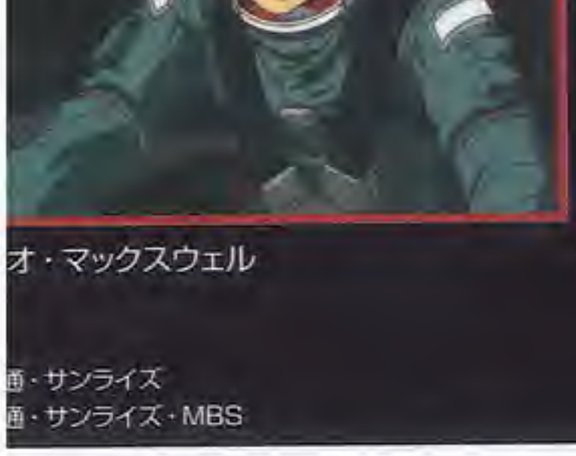
NIC FILE
ダムデスサイズヘル（EW版）／
ルゴ／ビルゴII／
ンジバル／トリロバイト／
ダム4号機／ガンダム5号機／
ダム6号機

ONAL PROFILE
ュオ・マックスウェル／
リベンターの人々／
ラウ・ボウ／
ワイトベースの乗員

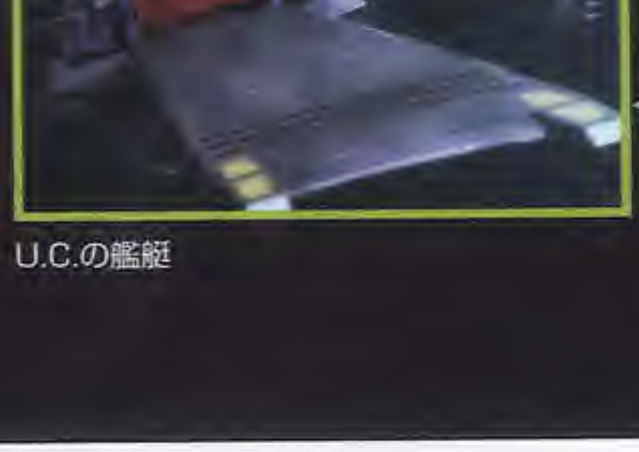
WORLD GUIDE
トレーズ失脚とOZの分裂／
U.C.の艦艇／マリーメイアの反乱

A.C.TIMELINE
OZの台頭と新たな戦乱

GLOSSARY
『機動戦士Zガンダム』用語集



オ・マックスウェル



U.C.の艦艇

通・サンライズ
通・サンライズ・MBS

4910205610828
00562
雑誌 20561-8/7 通巻44号
Ⓛ-2017/3/1 2012年8月7日発行
発行所—デアゴスティーニ 定価590円
本体562円